

2021 年度

育児・介護・上位職に関する実態把握のための調査結果

2023 年 3 月

埼玉県立大学

ダイバーシティ推進委員会

2022年度 埼玉県立大学ダイバーシティ推進委員会の調査結果について

ダイバーシティ推進委員会では、活動計画の方向性を検討するために2021年度に4つの調査を企画、実施しました。この報告書はそのうち3つの調査結果「育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査」「介護に関する調査」「上位職を目指すことに関する調査」を取りまとめたものです。

ダイバーシティについて広く意識の実態を問う「職場で差別感や疎外感を抱く要因の調査」についても後日公表予定です。

これらの結果から、教職員が抱える育児や介護の課題に対して上司への啓発が必要なこと、上位職を目指す環境として「公正な人事評価」が必要であり、とくに女性教員のためには研究支援策が必要なことなどが把握でき、また、働き方として在宅勤務の活用が課題の解決として重要であることもわかりました。新たな研修企画や意見交換の場づくりなど今後の委員会としての活動に生かしていく予定です。

学生も含めて誰もが働きやすい大学にするために、2021年度の実態を表すデータとしても活用いただければ幸いに存じます。

埼玉県立大学 ダイバーシティ推進委員会
委員長 鈴木幸子

目次

| | |
|----------------------------|----|
| I. 調査の概要 | 4 |
| 1. 背景と目的 | |
| 2. 実施概要 | |
| II. 育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査結果 | 7 |
| III. 介護に関する調査結果 | 19 |
| IV. 上位職を目指すことに関する調査結果 | 25 |
| 調査票 | 32 |
| 資料 1 育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査 | |
| 資料 2 介護に関する調査 | |
| 資料 3 上位職を目指すことに関する調査 | |

I. 調査の概要

1. 背景と目的

人口減少社会が到来する中で、教職員が仕事と育児、介護等を両立し、安心して働き続けることができる環境を整備することは、重要な政策課題となっている。

埼玉県立大学は、これまで陶冶、進取、創発を基本理念とし、地域の保健医療福祉の向上に資する教育と研究に取り組んできた。今後、社会の変化に応じたさらなる発展のためには基本理念を基盤として多様な価値観を尊重し、柔軟な大学であることが求められている。しかし、埼玉県立大学の教職員が仕事と育児、介護等の両立の実態について把握できておらず、改めてその実態を把握した上で、ニーズや問題点を認識する必要がある。

これらを踏まえ、教職員の育児・介護・上位職を目指すことに関して、そのニーズや実態等を把握するとともに、仕事と育児・介護の両立に関する現状及び課題等について、調査、分析を行い、仕事と育児・介護を両立しやすい環境整備を進めるための更なる方策等の検討に役立てることを目的とする。

2. 実施概要

(1) 実施内容・方法

主たる調査は常勤教職員及び非常勤教職員全員を対象とした WebClass を用いたオンライン調査（一部は質問紙調査併用）である。この調査に先立ち、既存調査を参考に調査項目を検討した。調査結果の分析は、ダイバーシティ推進委員会のメンバーで検討を重ね、報告書を作成した。

参考文献

- 1) 厚生労働省 平成 25 年度 育児休業制度等に関する実態把握のための調査研究事業 報告書 平成 26 年 3 月
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042340.html>
- 2) 厚生労働省 平成 30 年度 仕事と育児の両立に関する実態把握のための調査研究事業 労働者調査結果の概要 平成 31 年 2 月
<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000534370.pdf>
- 3) 株式会社富士通マーケティング プレスリリース 『介護をしている会社員の 88.5% が、「介護休業制度を使用していない」と回答 「仕事と介護の両立」に関するアンケート調査を実施』2015 年 10 月 22 日
<https://www.fujitsu.com/jp/group/fjm/resources/news/press-releases/2015/151022.html>
- 4) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 女性管理職の育成・登用に関する調査
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2015/04/cr_150416.pdf
- 5) 株式会社パソナ パソナキャリアカンパニー 意識調査レポート「女性リーダーに関

する調査 2015」 <https://www.pasonacareer.jp/pdf/info/pr20150513.pdf>

- (2) 調査実施方法：WebClass を用いたオンライン調査
- (3) 実施時期：2022 年 2 月 15 日から 2 月 28 日
- (4) 調査概要：対象、回収率、結果の概要

1. 育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査結果（担当者：内山真理准教授）

| | |
|-------|---|
| 対象 | 常勤教職員及び非常勤教職員全員 237 名（教員：167 名、職員：36 名、非常勤 34 名。臨時職員と非常勤講師は除く） ※子どもの有無に関わらず回答を得た。 |
| 回収率 | 有効回収票数：171 72.2%（常勤職員 43.3%、非常勤職員 12.9%、常勤教員 43.3%、非常勤職員 0.6%） |
| 結果の概要 | <ul style="list-style-type: none">・ 子どもが「いる」65.5%。小学校 6 年生までの子どもの割合は 50%。・ 育児休業取得状況は女性 100%、男性 62.5%。・ 男性が育児休業を取得することのキャリアへの影響は「多くの職種では大きく影響する」16.9%。その理由は、「制度が整備されていなかった」、「育休の取得しづらい雰囲気」、「収入を減らしたくなかった」・ 支援、育児サービスの利用状況は、ベネフィットステーションの育児サーブ 12.5%、大学や WebClass における支援制度の情報提供 7.1%、育児支援室（研究棟 409）1.8%。・ 在宅勤務における仕事と子育ての両立は、「非常に働きやすい」30.4% <p>対策</p> <ol style="list-style-type: none">1. 仕事と育児の両立するための研修開催等により上司・職場意識改革2. テレワーク等の在宅勤務の育児支援制度の充実 |

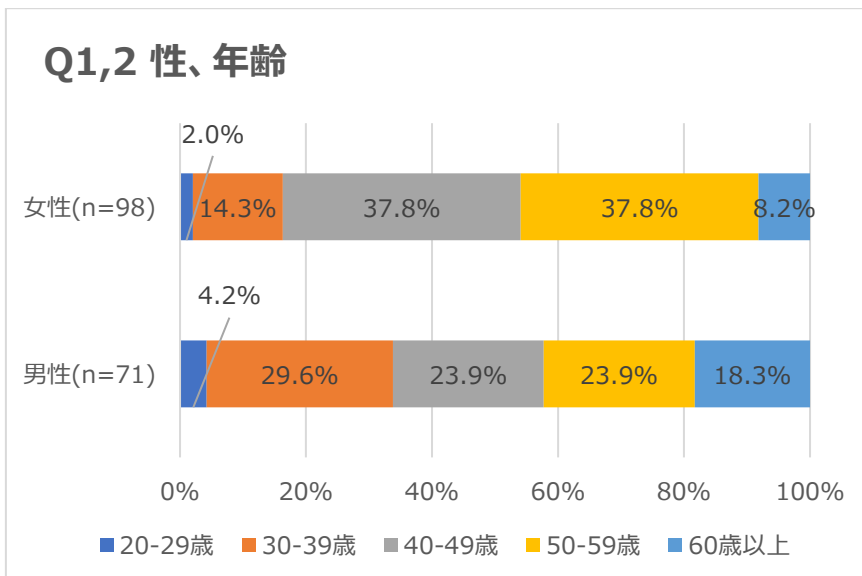
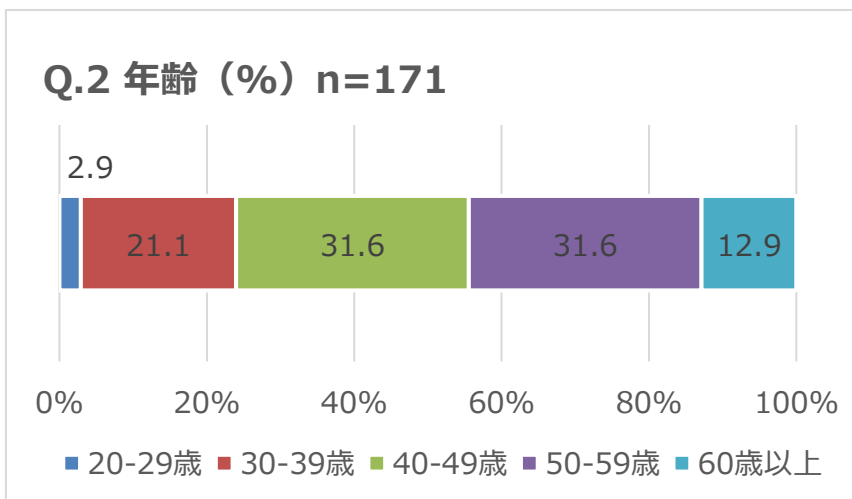
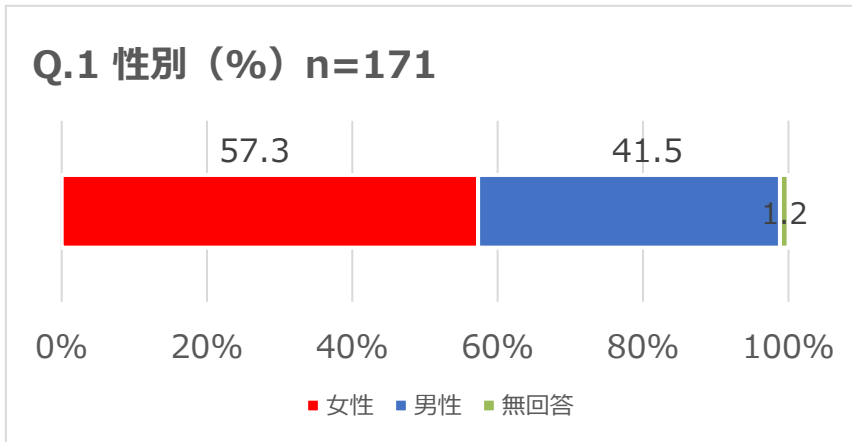
2. 介護に関する調査結果（担当者：事務局 高木薫）

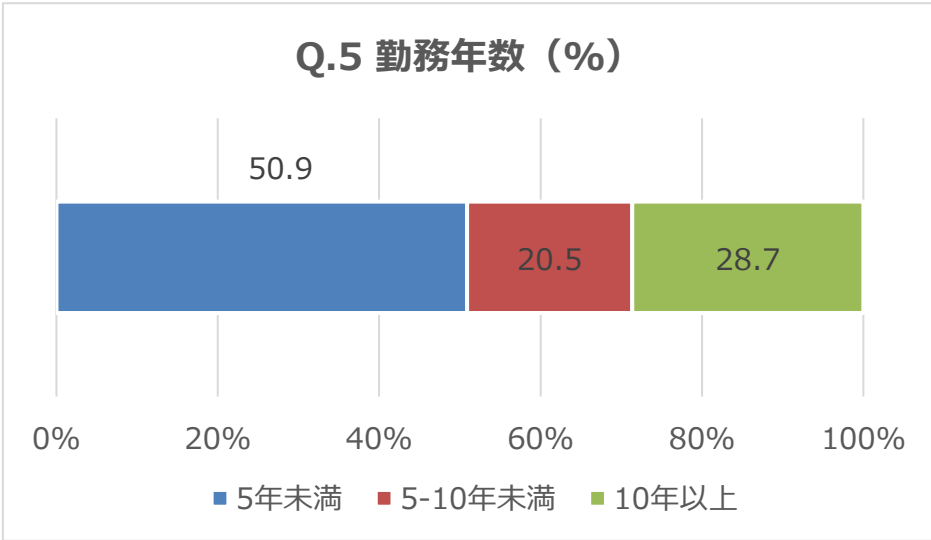
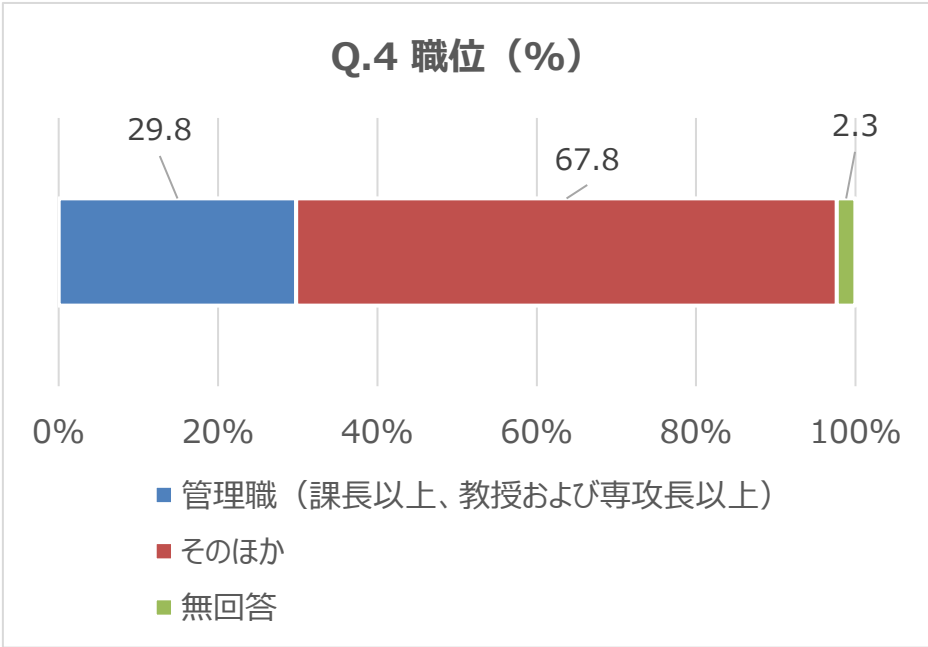
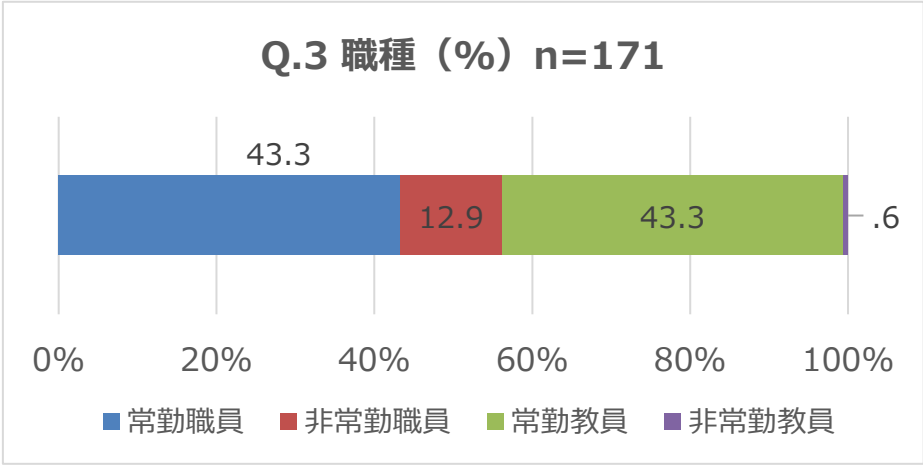
| | |
|-------|---|
| 対象 | 常勤教職員：203名（教員：137名、職員：36名） ※介護の有無に関わらず回答を得た |
| 回収率 | 有効回収数：138 68.0%（教員 72.3%、職員 100.0%） |
| 結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護者「あり」は26.8%。要介護者は、父母が55.3%、義父母42.1%。 ・ 仕事と介護の両立困難な理由、悩みは「精神的疲労」78.9%、「時間の不足」71.1%、「身体的疲労」63.2%。 ・ 介護休暇などの制度の利用は、「利用したいと考えるが、利用していない」40.5%。その理由は、「今後必要になったときにため」51.4%、「忙しくて休めない」37.8%。 ・ 介護支援で重要なものは、「テレワーク」71.1%、「土日業務の配慮」44.7%、「介護休暇」44.7%。 <p>対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護支援制度の知識の普及と制度利用方法の周知 2. テレワーク等の在宅勤務の充実による介護時間の確保 |

3. 上位職を目指すことに関する調査結果（担当者：鈴木幸子教授）

| | |
|-------|--|
| 対象 | 常勤教職員 203名（教員：137名、職員：36名） ※職位に関わらず回答を得た |
| 回収率 | 有効回収数：138 69.5%（教員 60.4%、職員 100.0%） |
| 結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 昇任希望「あり」は43.5% ・ 昇任したいと思わない28.3%。その理由は「研究業績不足（教員）」「家庭との両立」「管理職に向いていない」「能力不足」 ・ 昇任を目指せる環境は「公正な人事評価」「学内のコミュニケーション」「役割相当の報酬」 ・ 昇任に役立ったのは「多様な業務経験」「チームで仕事をする経験」「上司の支援」 <p>対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性教員の研究支援（研究支援員制度の他に「研究能力向上」の支援） 2. 上司（学科長等）との情報交換、研修（チームマネジメント） |

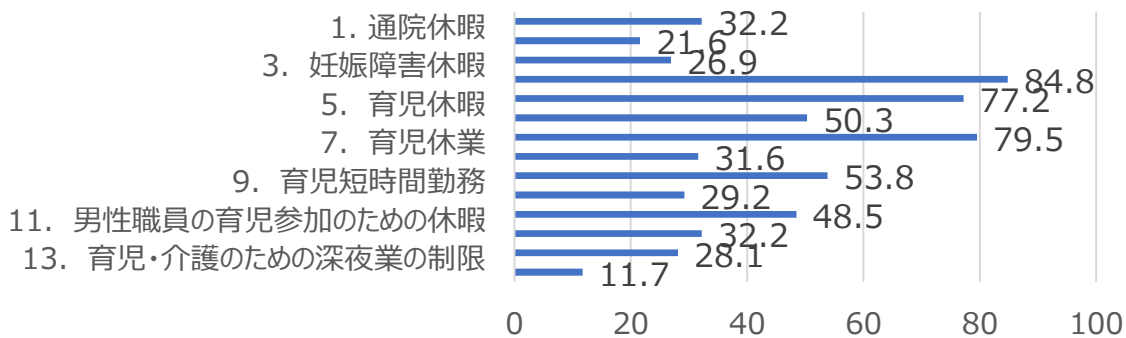
II. 育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査結果



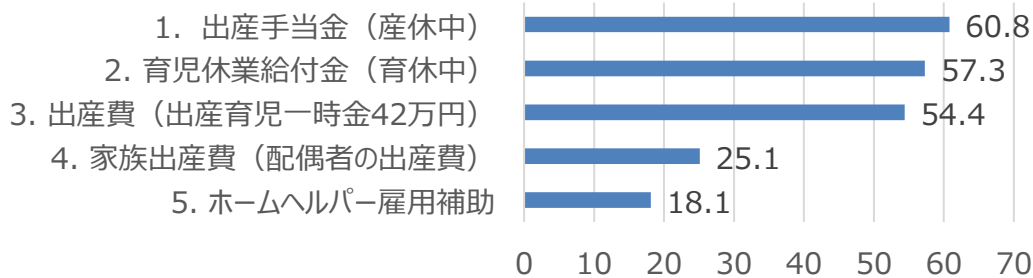


Q.6 出産・育児に関する「休暇制度」の認知度 (%)

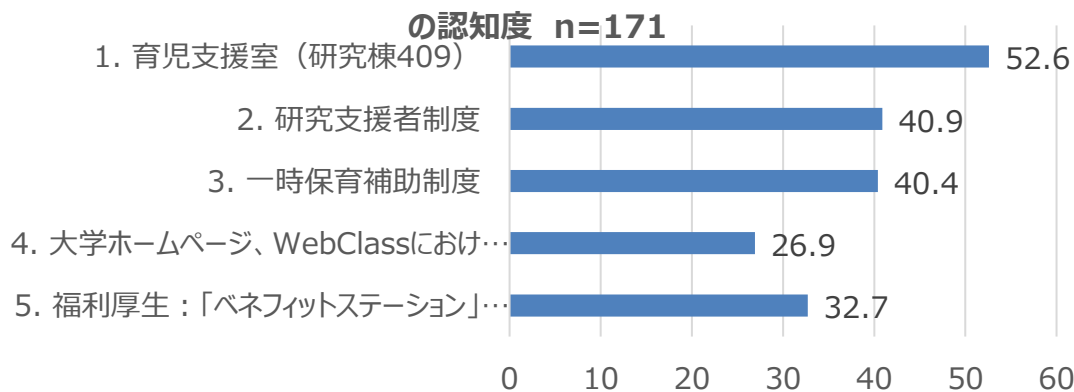
n=171



Q.7 出産・育児に関する「給付金」の認知度 (%) n=171



Q.8 「埼玉県立大学独自の育児支援」や「福利厚生」の育児サービス」の認知度 n=171

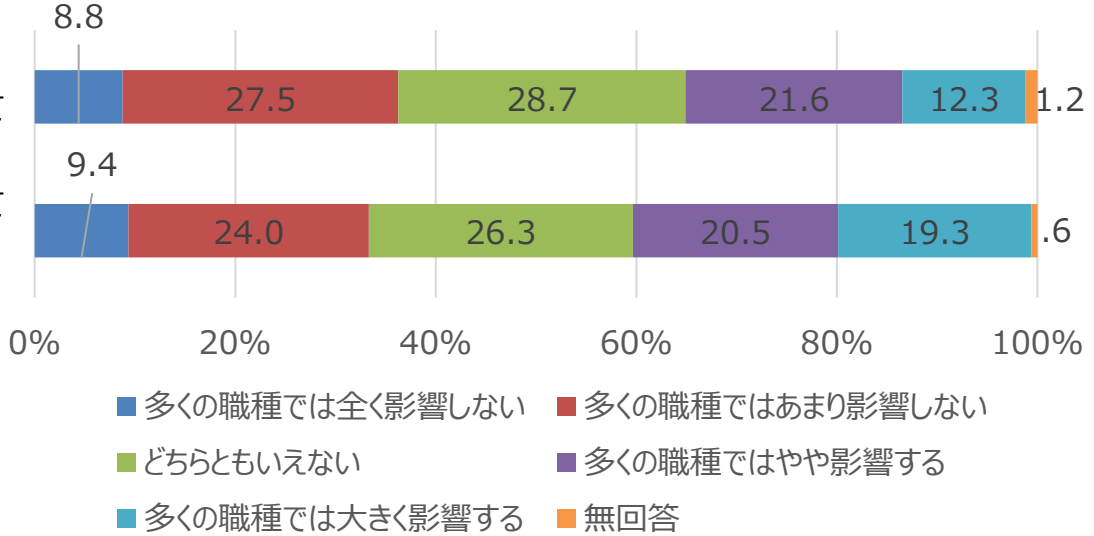


Q9-10. 「育児休業を取得することのキャリアへの影響」

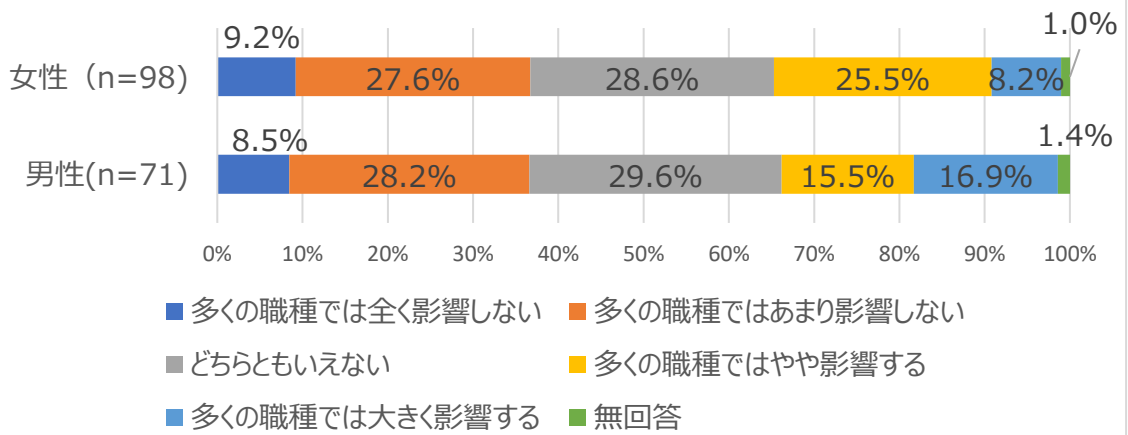
n=171

男性のキャリアについて

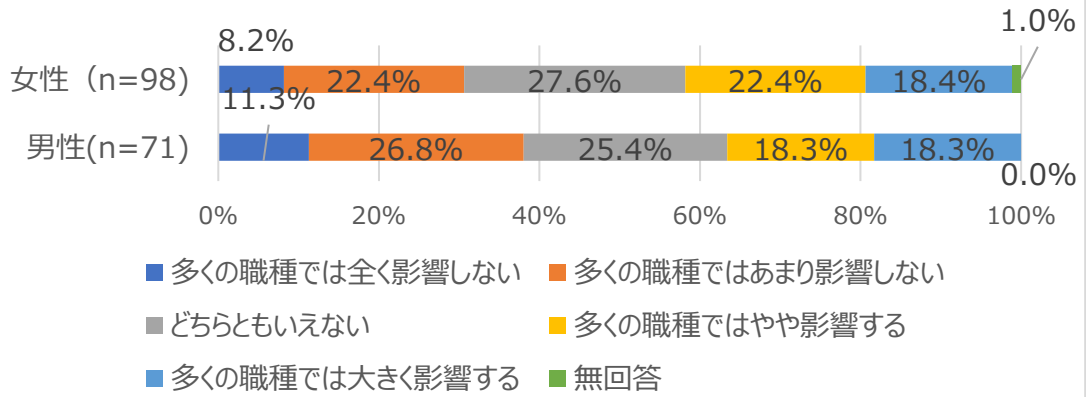
女性のキャリアについて



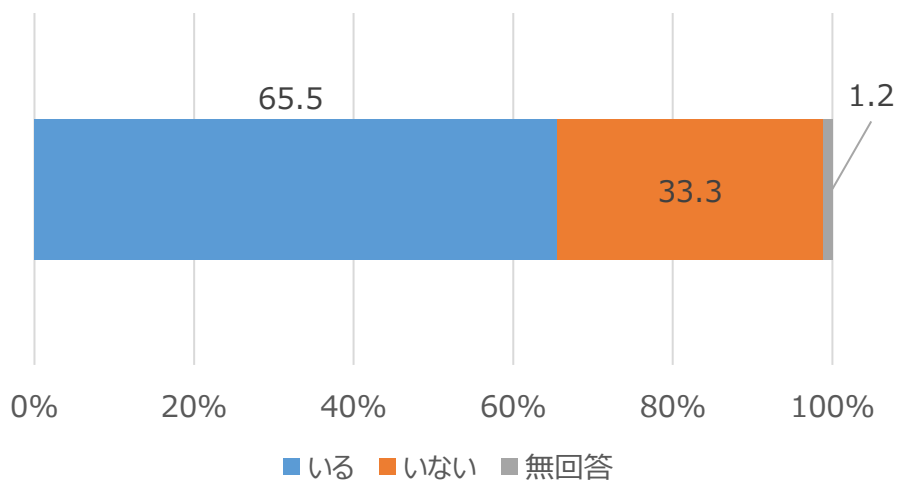
Q.9 男性が「育児休業を取得することのキャリアへの影響」



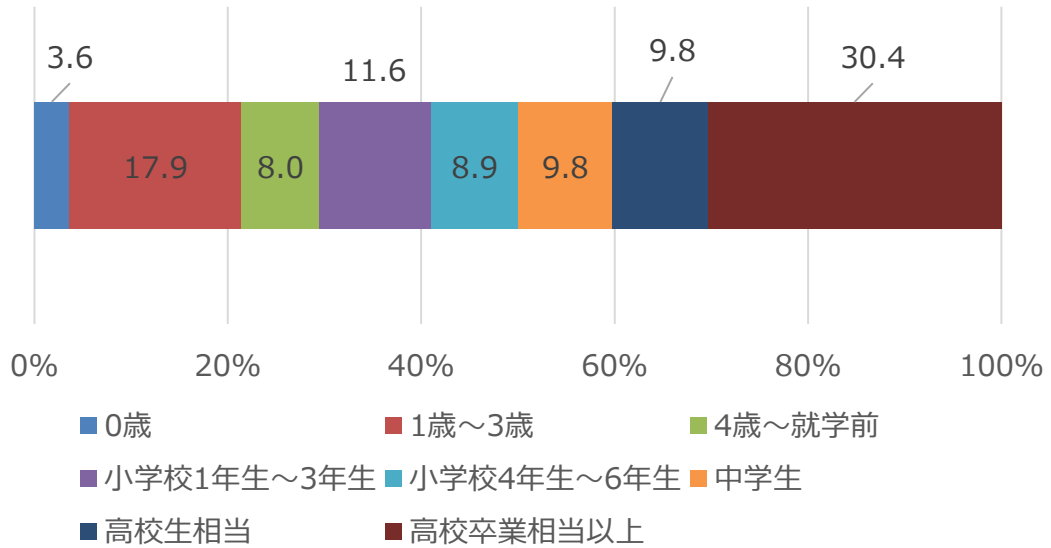
Q.10 女性が「育児休業を取得することのキャリアへの影響」



Q.11 子どもの有無 (n=171)

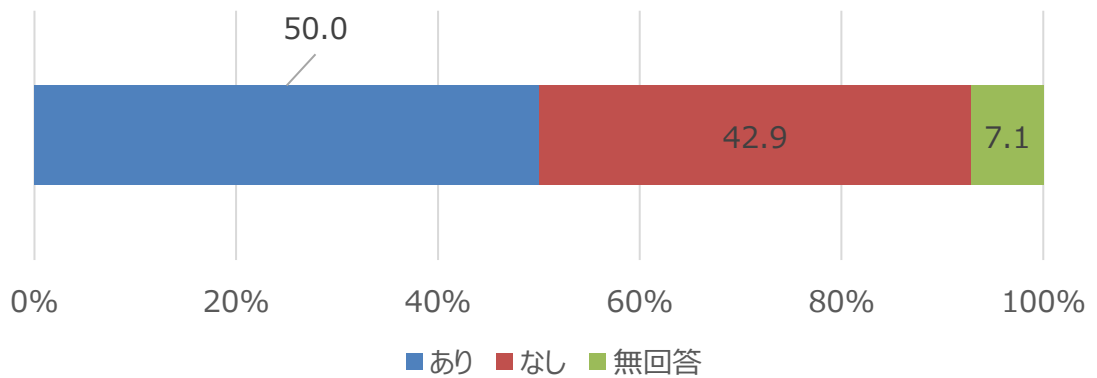


Q.12 末子の年齢または学年(n=112)

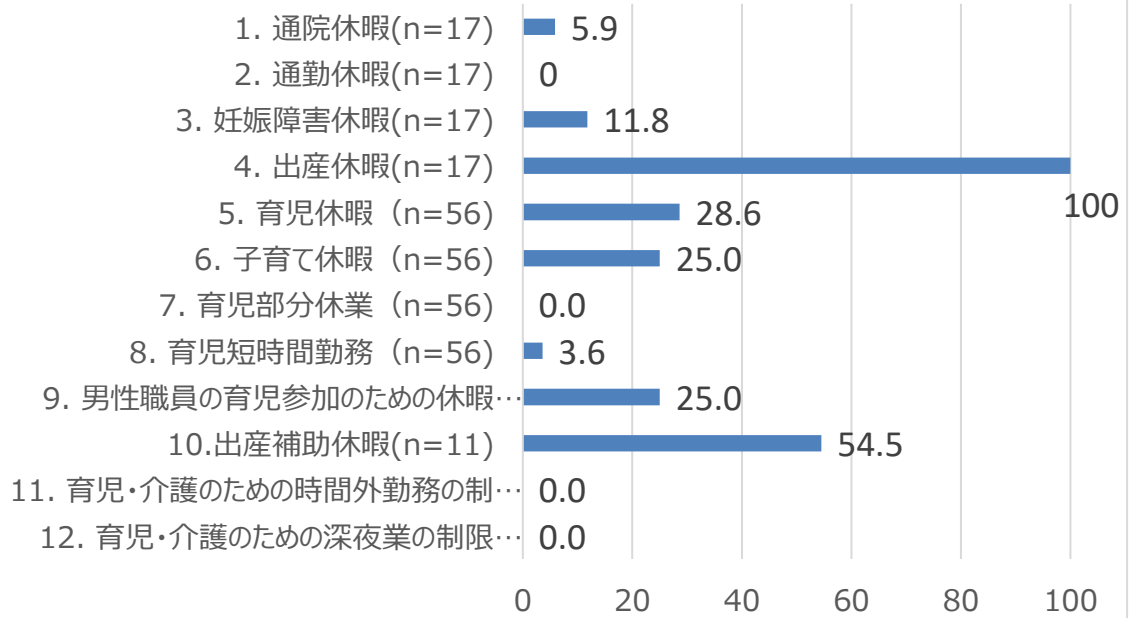


Q.18 末子の本学における出産経験（配偶者を含む）

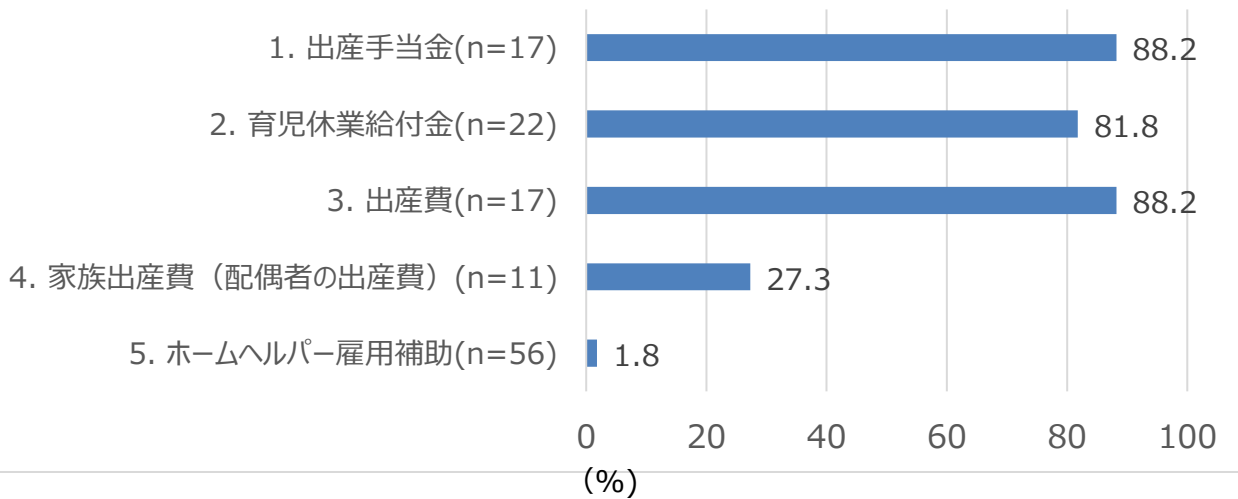
n=56



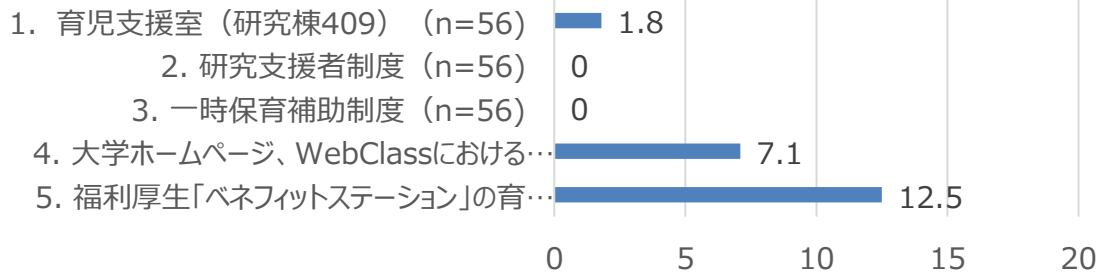
Q.13 休暇制度の利用状況 (%)



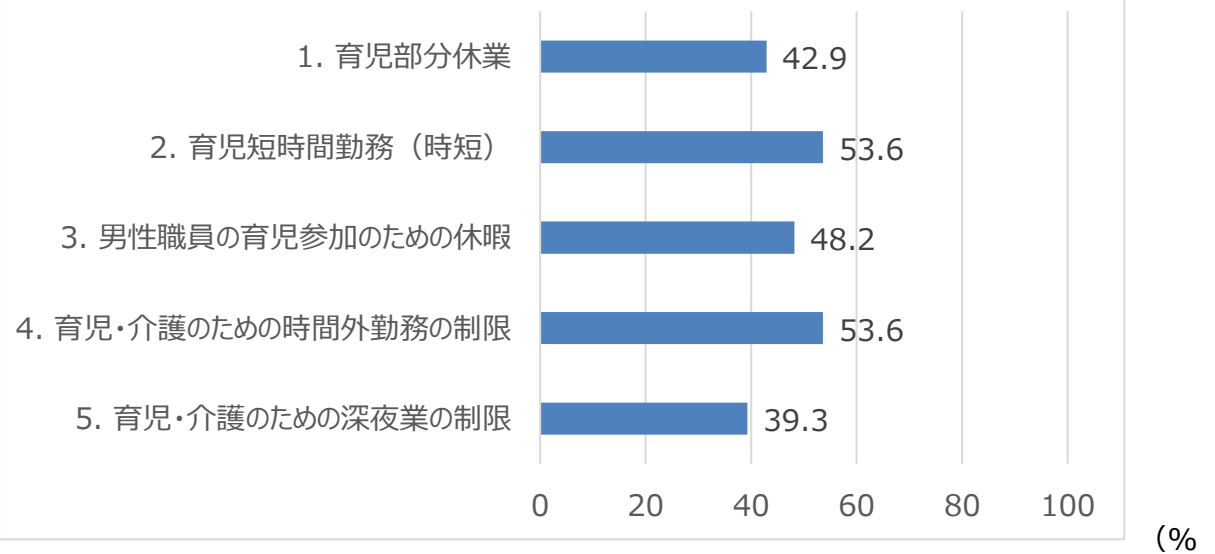
Q.14 給付金制度の利用状況 (%)



Q.15 支援、育児サービスの利用状況 (%)

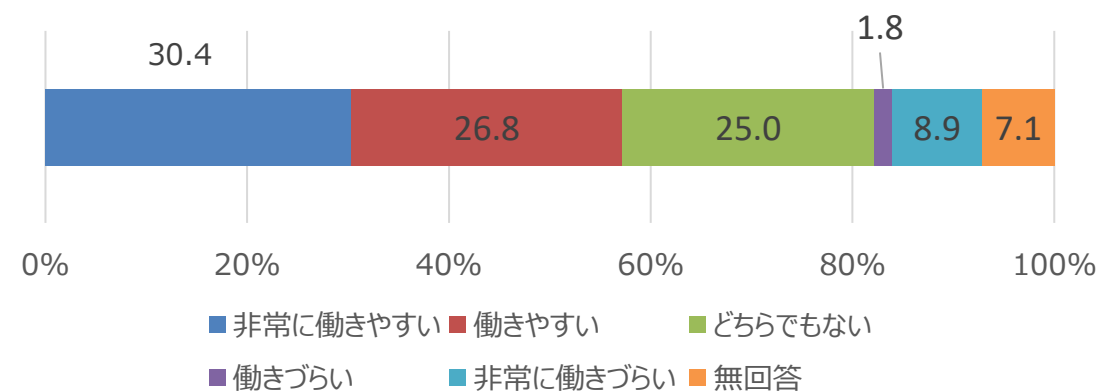


Q.16 対象年齢の延長を希望する割合 (n=56)

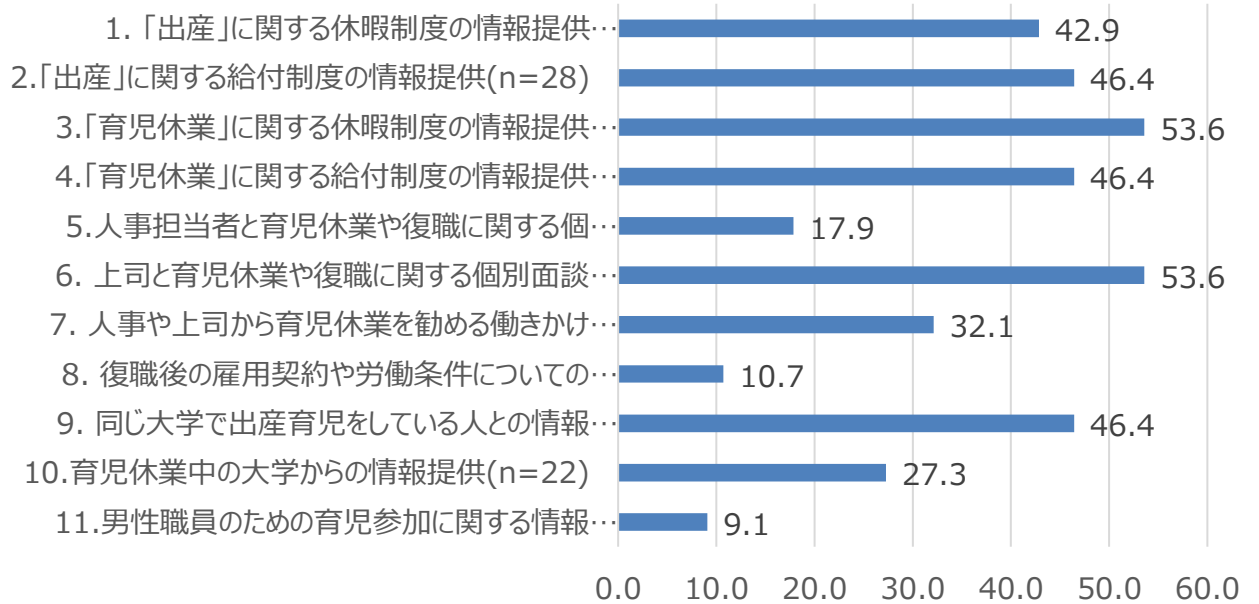


Q.17 在宅勤務における仕事と子育ての両立 (%)

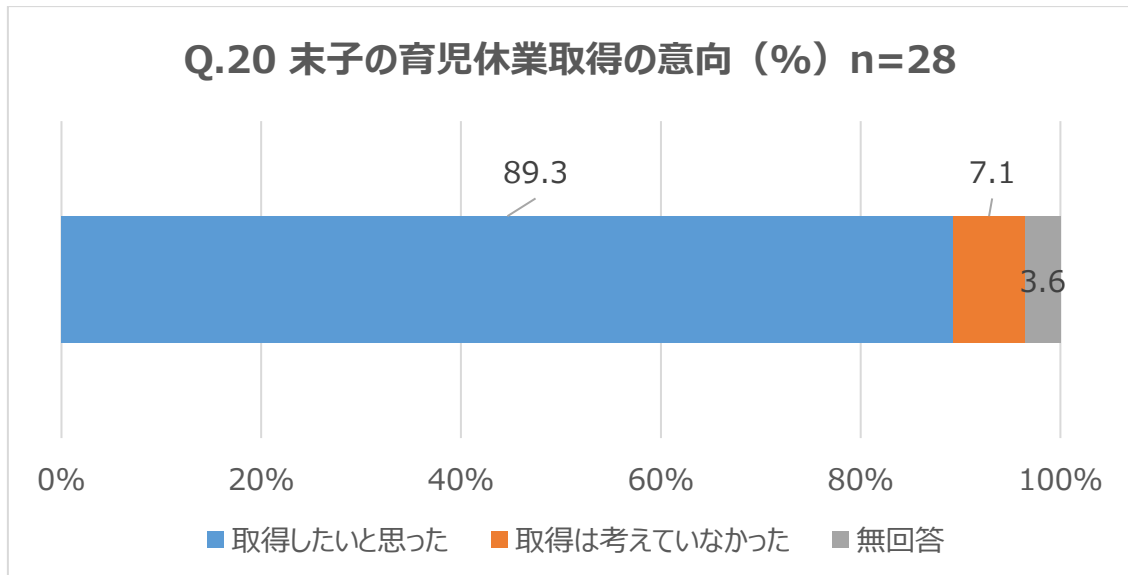
n=56



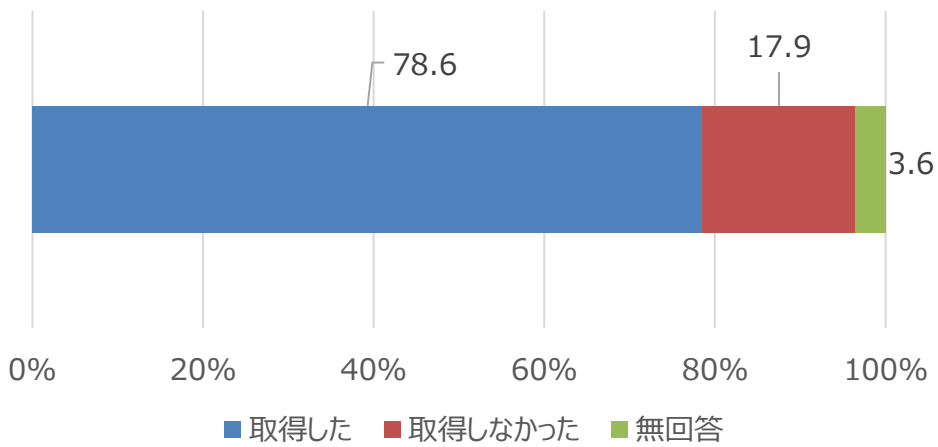
Q.19 大学からの働きかけがあった割合 (%)



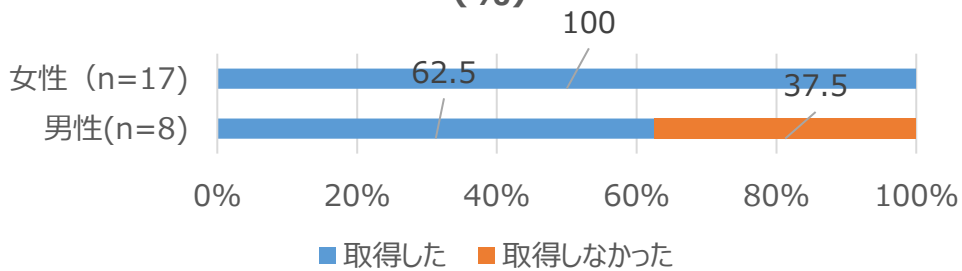
Q.20 末子の育児休業取得の意向 (%) n=28



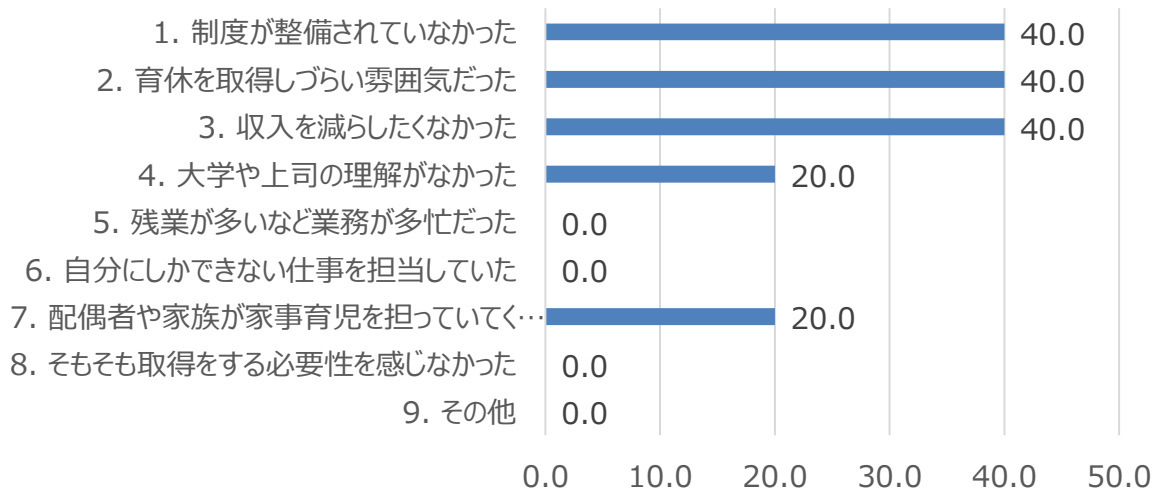
Q.21末子の育児休業取得状況(%) n=28



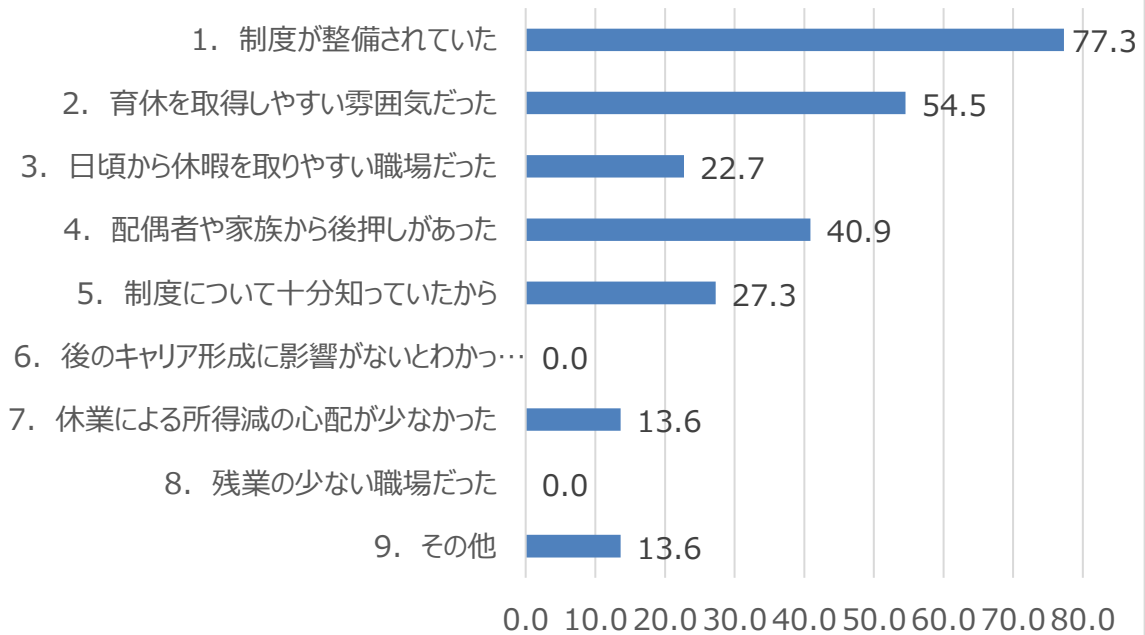
Q.20-21 育児休業取得希望者の取得状況 (%)



Q.22 末子の育児休業を取得しなかった理由 (n=5 男性のみ)



Q.23 末子の育児休業を取得できた理由(%) (n=22)



その他

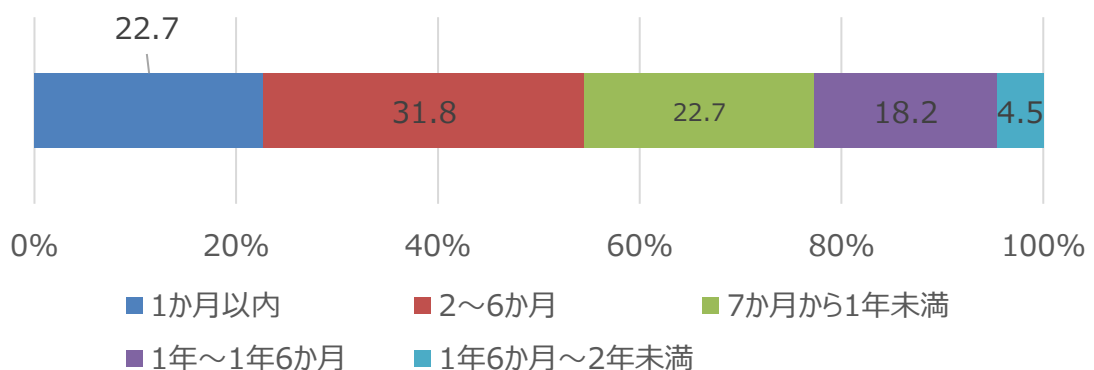
①取得できた理由ではないですが、育休取得直前に育休期間中に締め切りがある業務を依頼され、自宅でも業務をせざるを得ない状況がありました。

育休の期間が短かったため育児の時間を十分にとることができませんでした

②上司のすすめがあったから

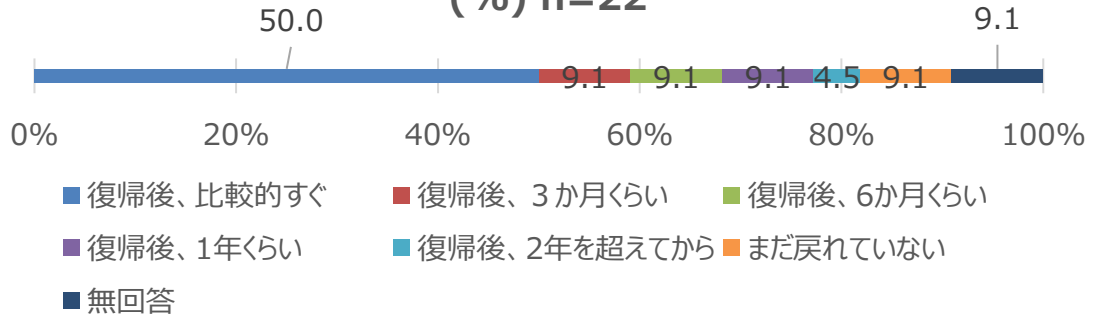
③前期後期の区切りに合わせて仕事復帰がしたかったから

Q.24 育児休業取得期間 (%) n=22

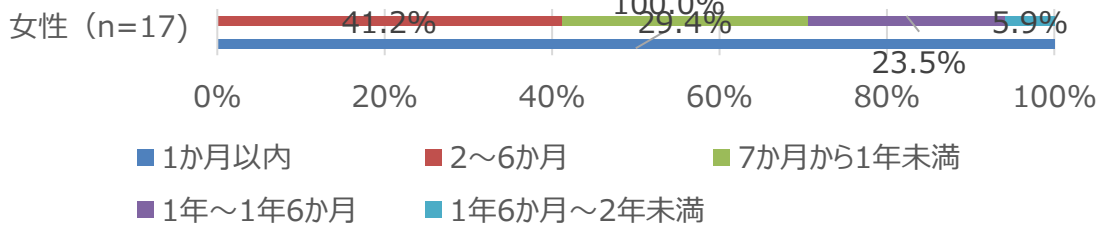


Q.25 育児休業取得前の感覚に戻るのに必要だった期間

(%) n=22

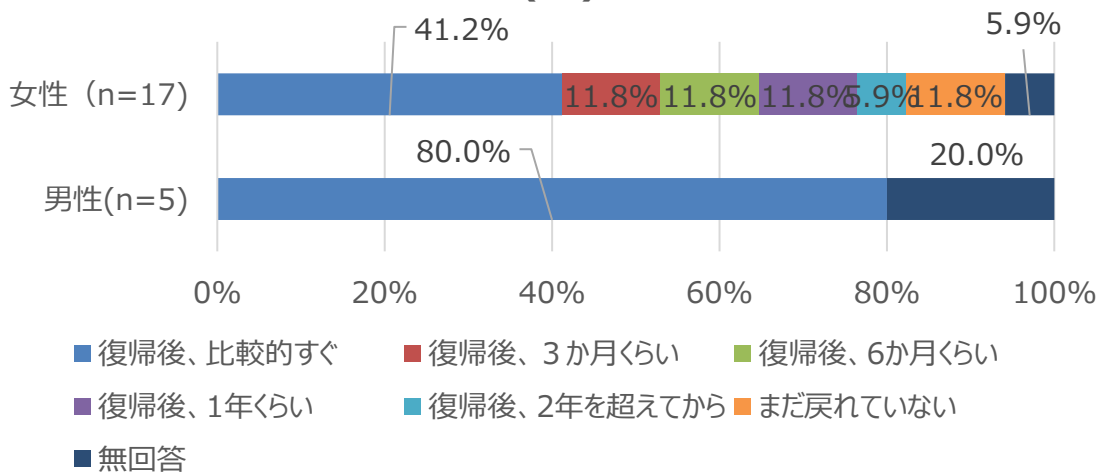


Q.24 育児休業取得期間(%)

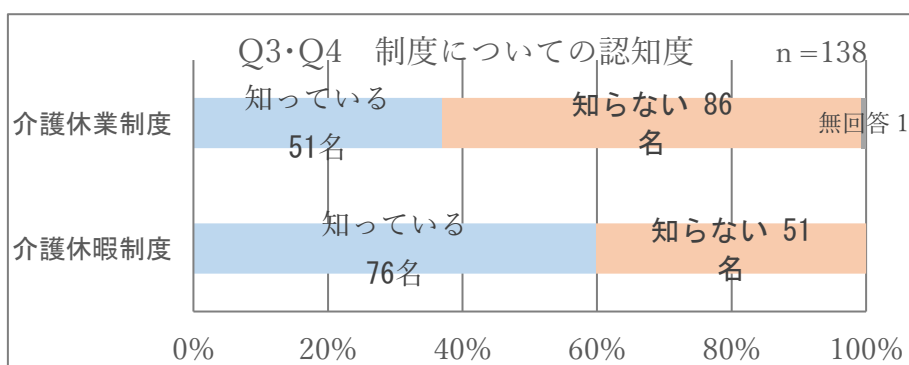
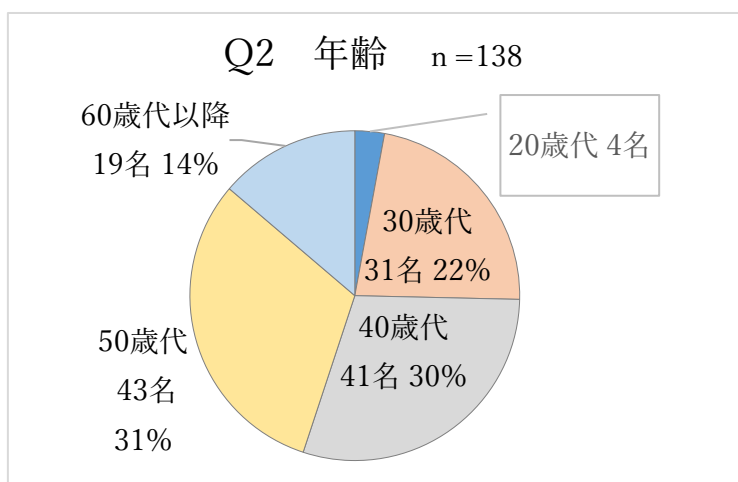
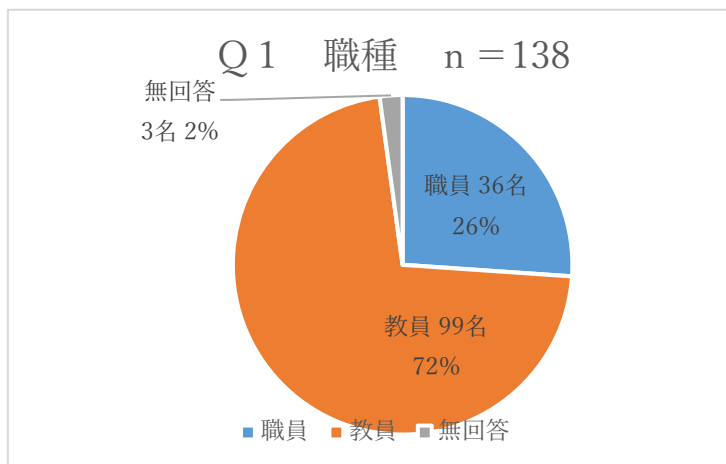


Q.25 育児休業取得前の感覚に戻るのに必要だった期間

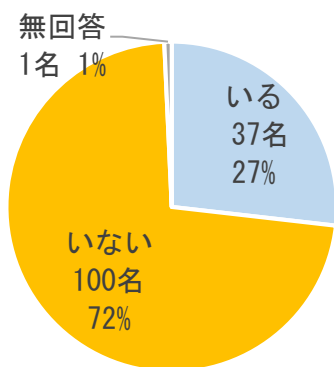
(%)



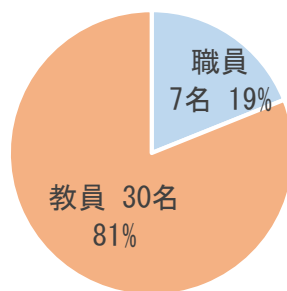
Ⅲ. 介護に関する調査結果



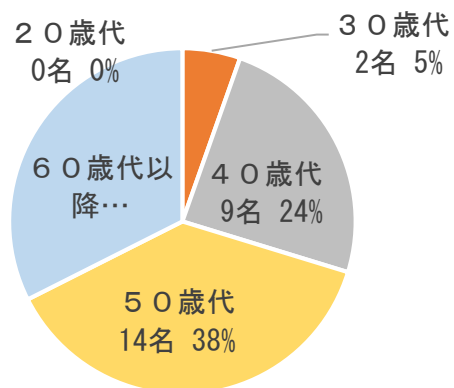
Q5 要介護者の有無 n=138



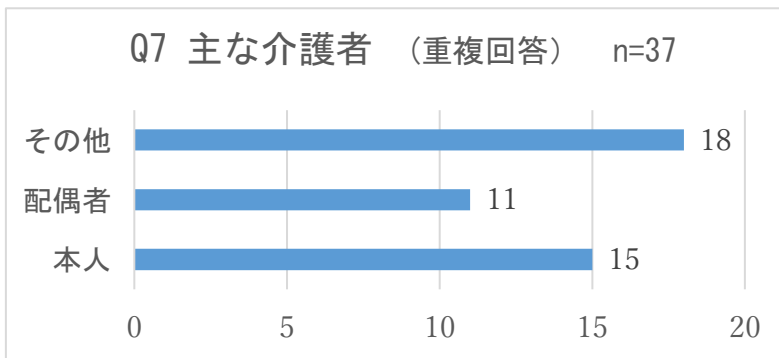
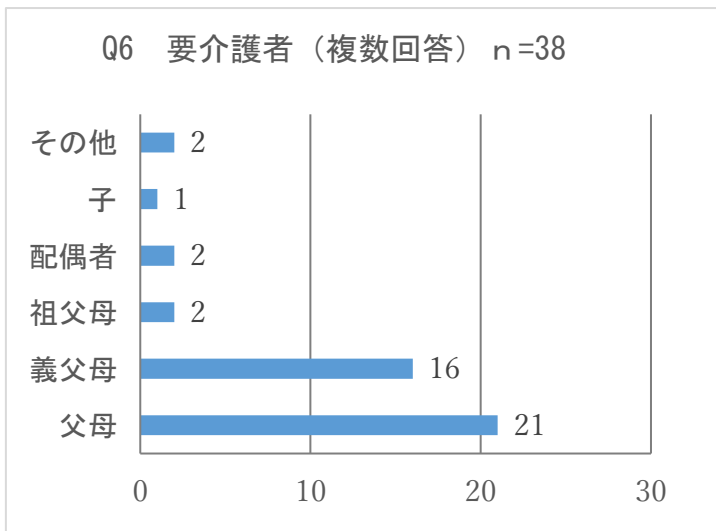
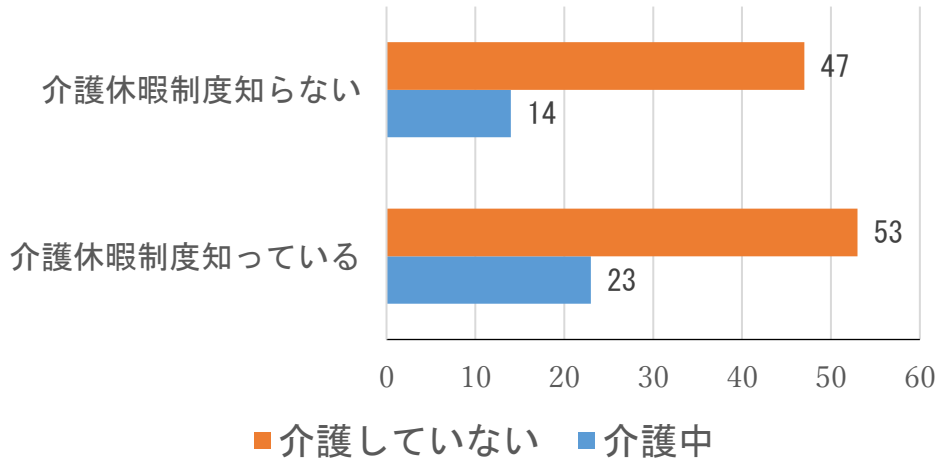
介護中の対象者の職種 n=37

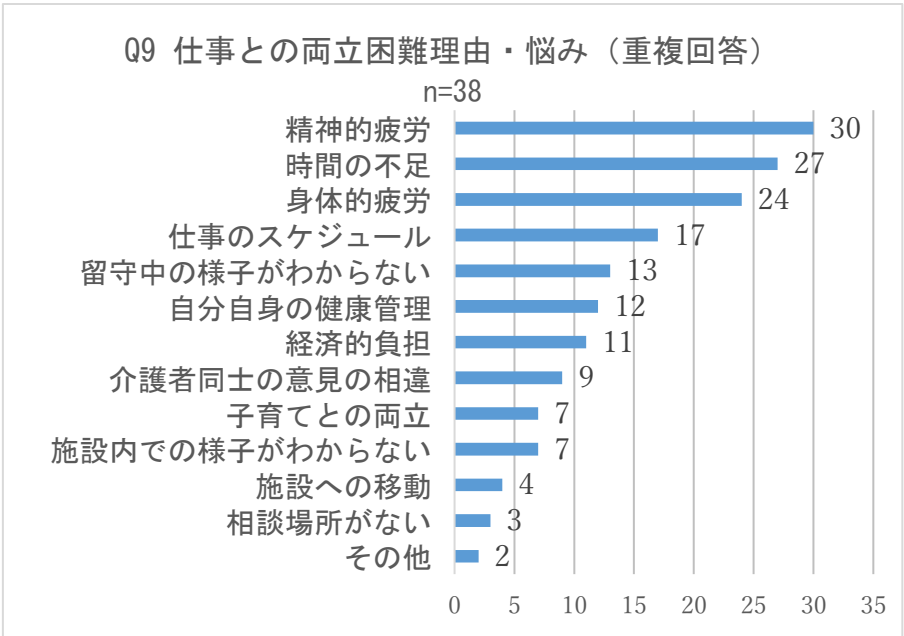
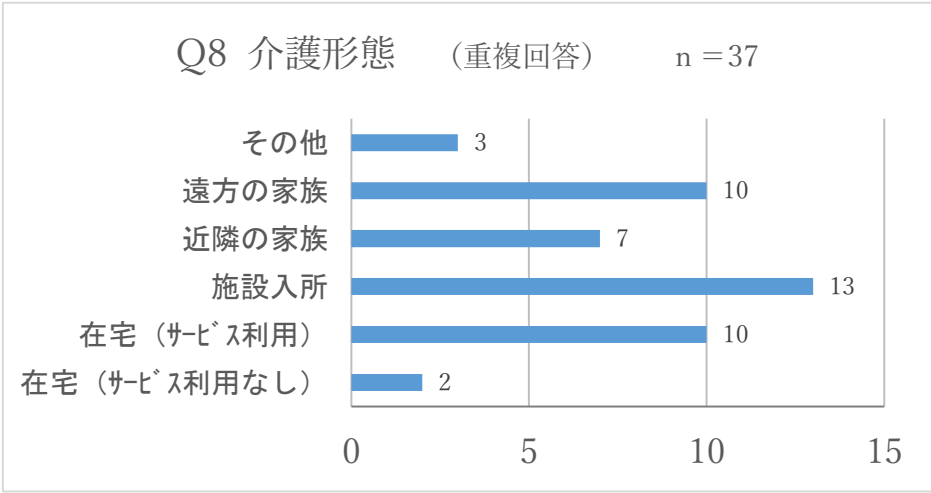


介護中の年齢層 n=37

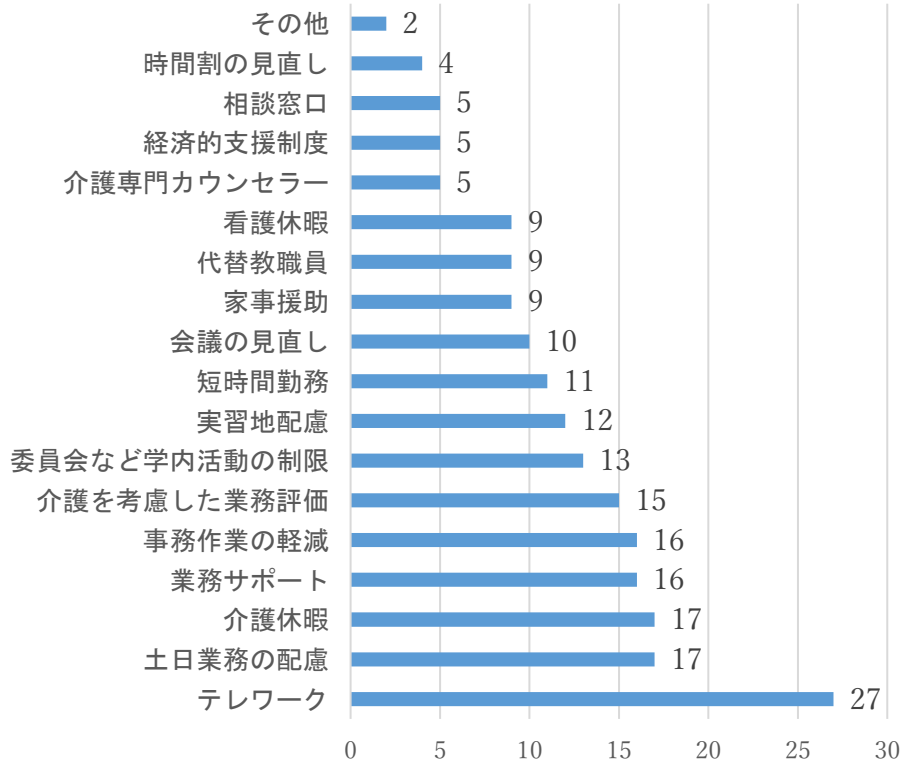


介護の有無と制度の認知度

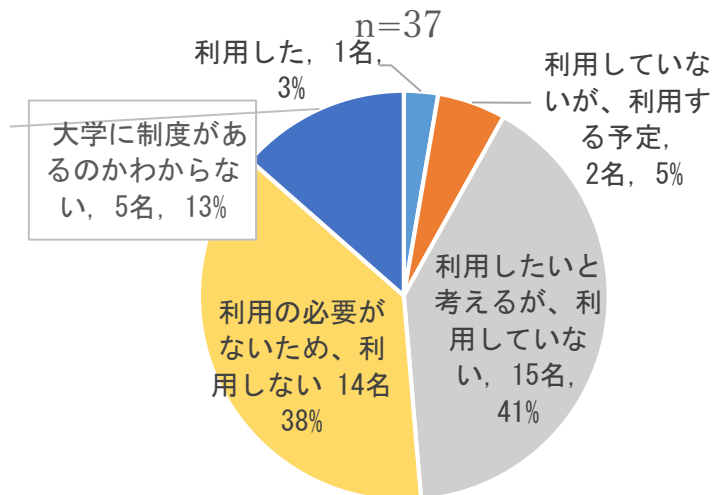


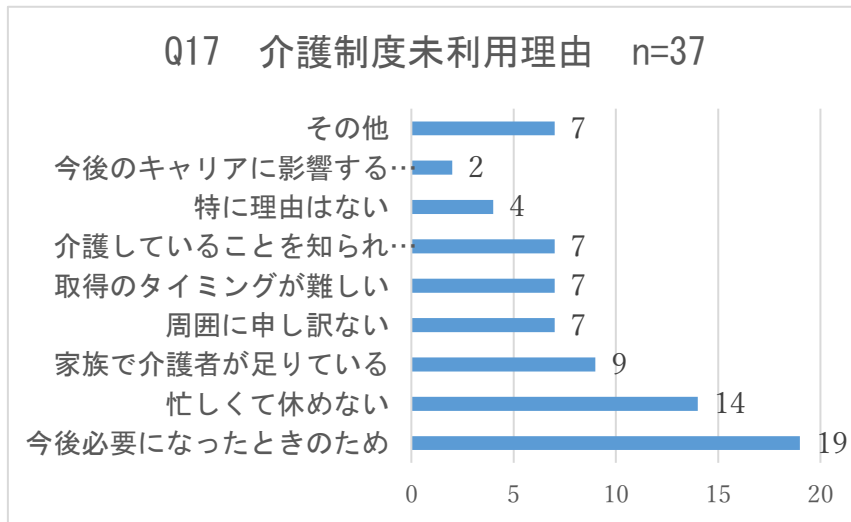


Q10 介護支援で必要・重要と思う支援 n=38



Q11介護休暇など制度の利用について

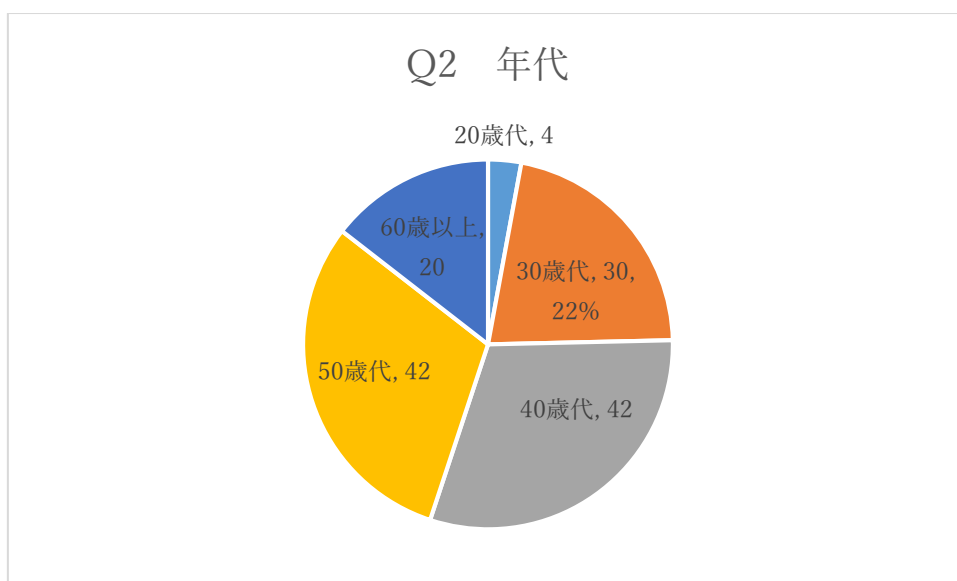
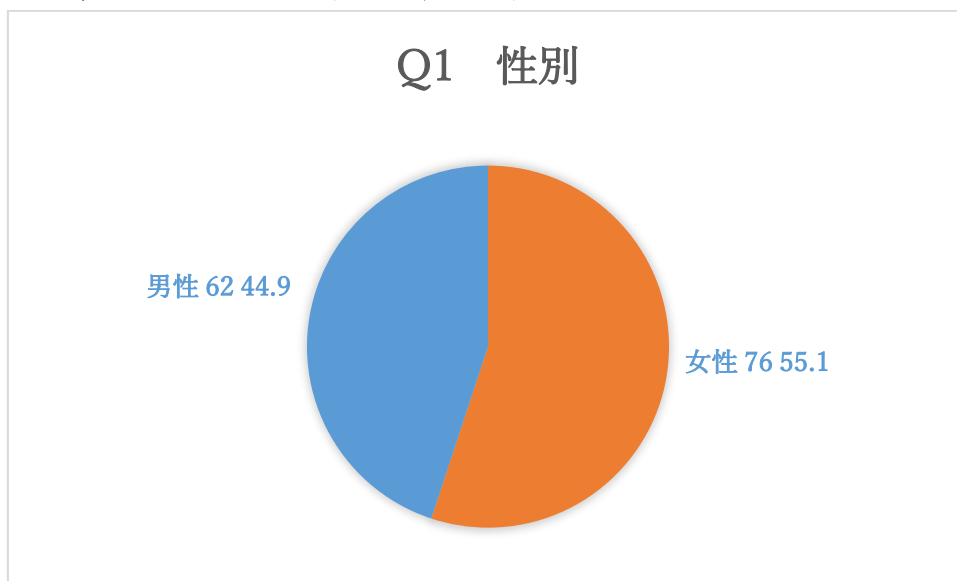




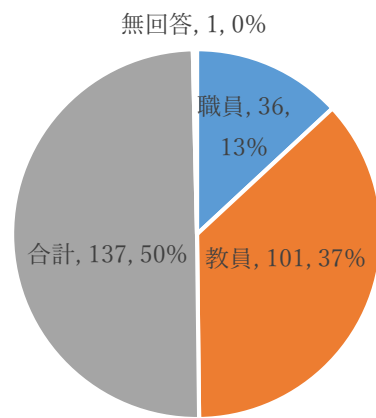
Q18 介護や介護支援に係るご意見（自由記載）

- ・ 介護保険制度等、いろいろな制度を知る機会がたくさんあるとよい
- ・ 子育てと介護が重なると大変です。
- ・ 現在この制度を利用しなくても良い状態ではありますが、親が高齢になることで将来的には利用をお願いしなければならないようなケースが出てくるかもしれません。誰もが安心してこの制度を利用することができる職場環境が続くと良いなと思います。
- ・ 介護休暇を申請したくとも、できないのが現状です。
- ・ 両親は元気ですが、子供のいない伯父伯母、遠縁などがみな 80 歳を超え高齢となり、いろいろ期待されていて困ることがあります。
- ・ 介護も（育児もちろん）、職場全体で協働して関わっていくべき。もちろん、公助の充実がその前提であることは言うまでもありません。老親をいつ介護せざるを得ない状況になるかもしれないという認識の全員での共有
- ・ 介護等を含めて生活に影響がある事項を踏まえた業務のスリム化

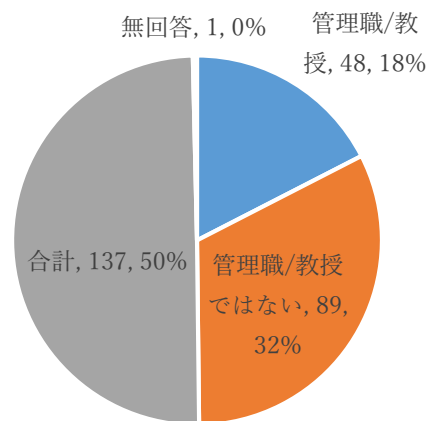
IV. 上位職を目指すことに関する調査結果



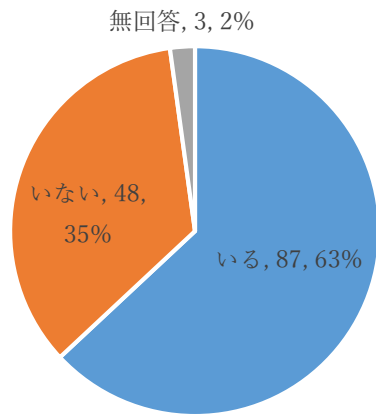
Q3 職種



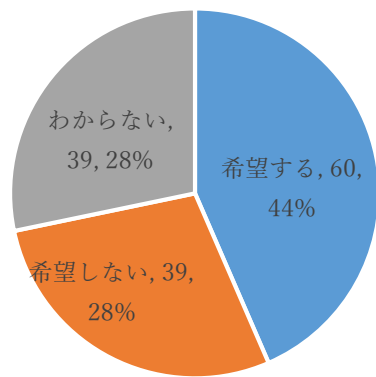
Q4 管理職/管理職以外



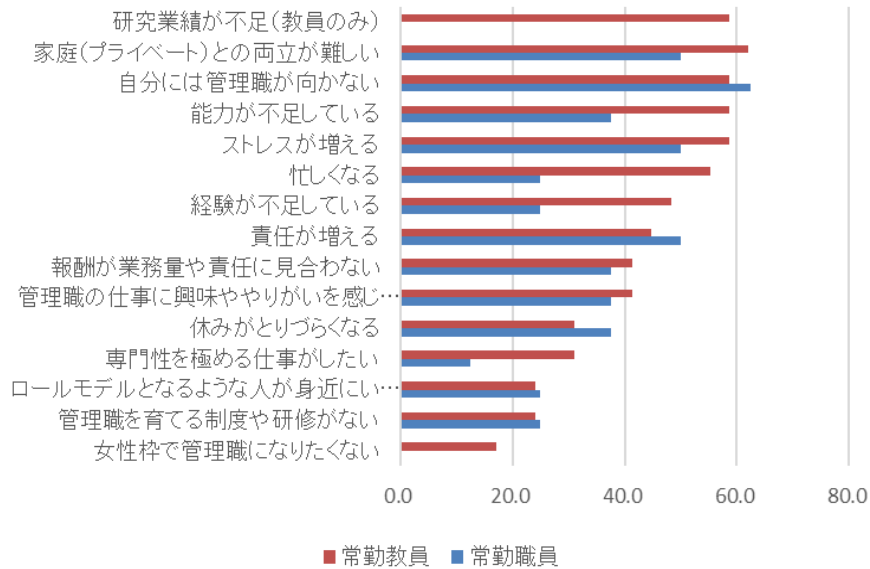
Q5子どもの有無



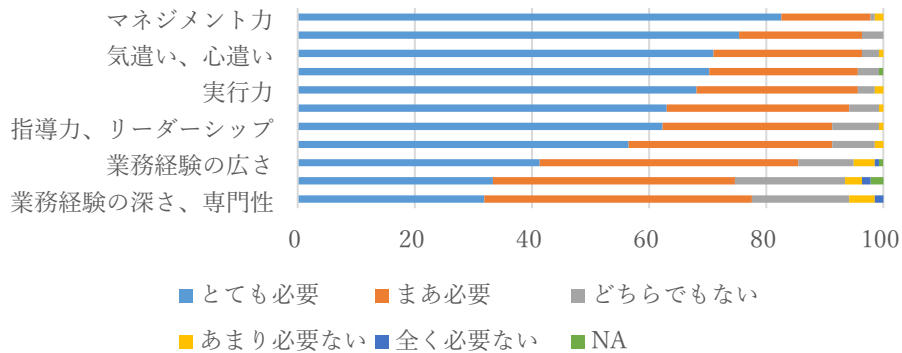
Q6昇任への希望



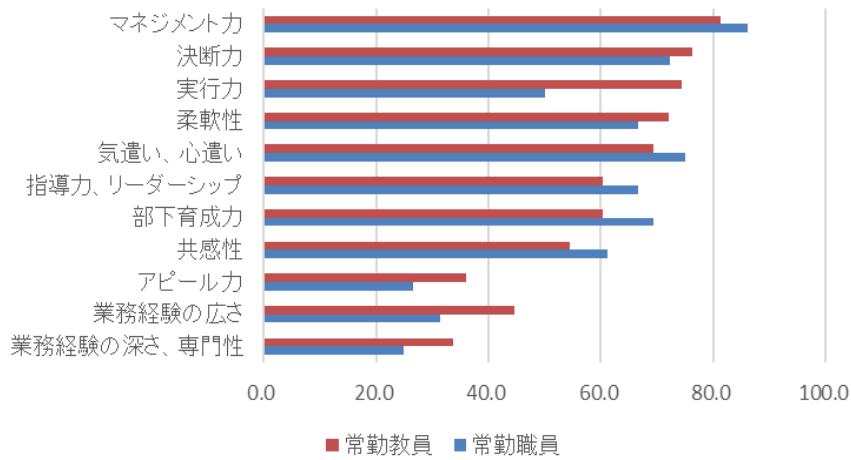
Q7 昇任したいと思わない理由(職種別)



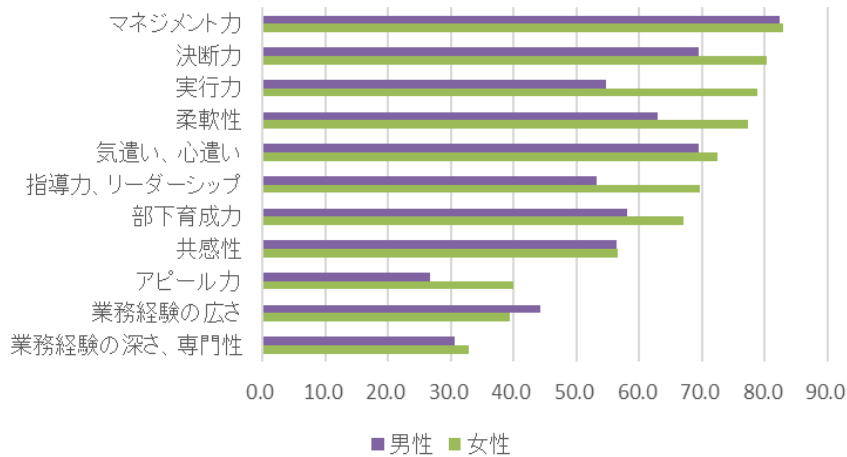
Q8~18 上位職に期待される能力 (%) n=138



Q8~18 上位職に期待される能力「とても必要」の割合(職種別)(%)

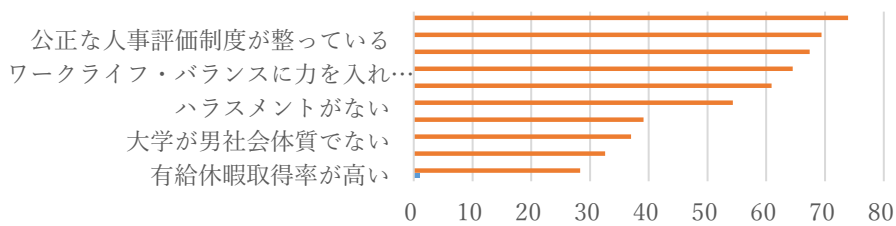


Q8~18 上位職に期待される能力「とても必要」の割合(性別)(%)

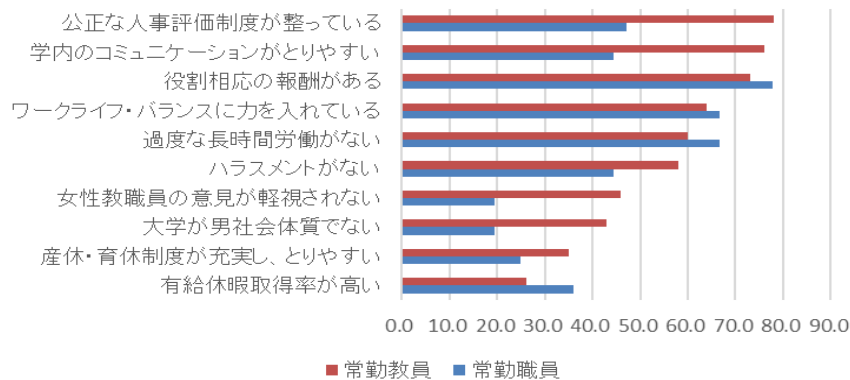


Q19 上位職を目指したいと思える環境 (%)

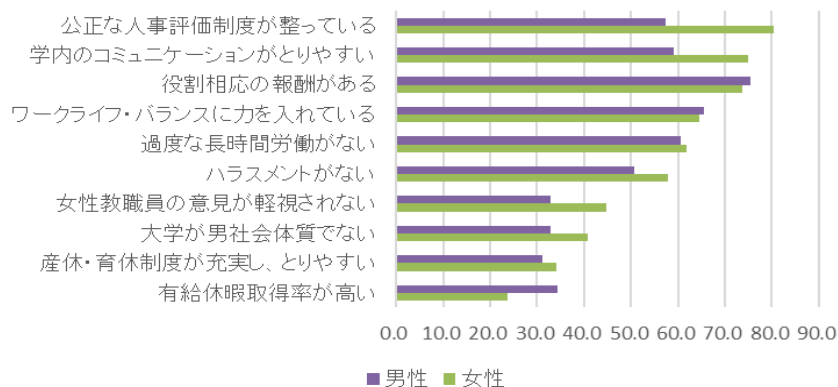
n=138



Q19 上位職を目指したいと思える環境(職種別)(%)

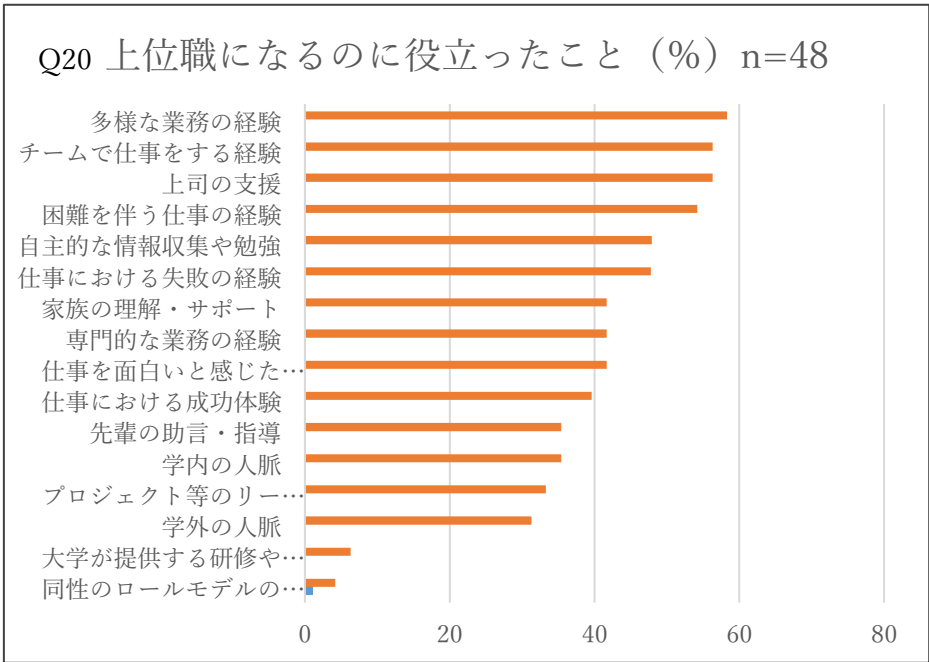


Q19 上位職を目指したいと思える環境(性別)(%)



その他記述

- ・ 意思決定への参画に意義を感じる・合理的で納得感のある組織運営がされること
- ・ 十分な財源と人材 県に対して意見の言える幹部・昇級が罰ゲームにならないためには相応のインセンティブが必要(授業時間の削減か手当など)
- ・ 上位職の先輩方が充実して楽しく仕事をしている、適切な評価を受けていることが分かる
- ・ (環境ではないが) やりがいがある。尊敬されるなど。
- ・ 教員組織と事務部門では異なると思います。また、教員部門も教育・研究の組織体制等が異なるので、一概には言えないと思います。



その他記述

- ・ 新たな役割に取り組むためには、過去の自分の仕事経験を踏まえて、対応するしかないと思います。
- ・ 仕事以外の経験（PTA 役員、自治会役員など）含む
- ・ 上司の仕事ぶり

調査票

資料 1 育休、時短勤務、一時保育制度に関する調査

設問 1 あなたの性別を選んでください。

1. 女性
2. 男性

設問 2 あなたの年齢を選んでください。

1. 20-29 歳
2. 30-39 歳
3. 40-49 歳
4. 50-59 歳
5. 60 歳以上

設問 3 あなたの職種を選んでください。

1. 常勤職員
2. 非常勤職員
3. 常勤教員
4. 非常勤教員

設問 4 あなたの職位を選んでください。

ここでは、管理職とは職員は課長以上、教員は教授および専攻長以上を指します。

1. 管理職（課長以上、教授および専攻長以上）
2. そのほか

設問 5 あなたの埼玉県立大学での勤務年数を選んでください。

1. 5 年未満
2. 5-10 年未満
3. 10 年以上

設問 6 埼玉県立大学における出産、育児に関する「休暇制度」として、あなたが知っているものをすべて選択してください。（複数回答可）

該当なしの場合、「いずれも知らない」を選択してください。

（参考）育児・介護支援制度 ガイドブック

https://swebclass.spu.ac.jp/webclass/do_contents.php?reset_status=1&set_contents

[_id=3092be097f5d36b4afa5025e52f6dc44](#)

パパママ育休プラス

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000169713.pdf>

1. 通院休暇
2. 通勤休暇
3. 妊娠障害休暇
4. 出産休暇（産前・産後休暇）
5. 育児休暇（取得単位：時間 1歳6か月までの育児時間）
6. 子育て休暇
7. 育児休業（育休）
8. 育児部分休業（就学前までの育児時間）
9. 育児短時間勤務（時短）
10. 出産補助休暇
11. 男性職員の育児参加のための休暇
12. 育児・介護のための時間外勤務の制限
13. 育児・介護のための深夜業の制限
14. パパママ育休プラス
15. いずれも知らない

設問 7 埼玉県立大学における出産・育児に関する「給付金」として、あなたが知っているものをすべて選択してください。（複数回答可）

該当なしの場合、「いずれも知らない」を選択してください。

1. 出産手当金（産休中）
2. 育児休業給付金（育休中）
3. 出産費（出産育児一時金 42 万円）
4. 家族出産費（配偶者の出産費）
5. ホームヘルパー雇用補助
6. いずれも知らない

設問 8 「埼玉県立大学独自の育児支援」や「福利厚生の子育てサービス」として、あなたが知っているものをすべて選択してください。（複数回答可）

該当なしの場合、「いずれも知らない」を選択してください。

1. 育児支援室（研究棟 409）
2. 研究支援者制度
3. 一時保育補助制度（入試業務日の保育料補助）
4. 大学ホームページ、WebClass における育児支援制度の情報提供
5. 福利厚生：「ベネフィットステーション」の育児サービス
6. いずれも知らない

設問 9 男性が「育児休業を取得することのキャリアへの影響」について、あなたの考えにあてはまるものを一つ選択してください。

1. 多くの職種では全く影響しない
2. 多くの職種ではあまり影響しない
3. どちらともいえない
4. 多くの職種ではやや影響する
5. 多くの職種では大きく影響する

設問 10 女性が「育児休業を取得することのキャリアへの影響」について、あなたの考えにあてはまるものを一つ選択してください。

1. 多くの職種では全く影響しない
2. 多くの職種ではあまり影響しない
3. どちらともいえない
4. 多くの職種ではやや影響する
5. 多くの職種では大きく影響する

設問 11 あなたは、お子さんがいますか。

1. いる
2. いない

設問 12

☆お子さんがいない方は、以下、設問 12~25 は回答不要ですので、「終了」ボタンを押して、登録を完了してから画面を閉じてください。

★ここからは【お子さんがいる方のみご回答ください】

あなたの一番下のお子さんの年齢または学年を一つ選んでください。

1. 0 歳
2. 1 歳～3 歳

3. 4歳～就学前
4. 小学校1年生～3年生
5. 小学校4年生～6年生
6. 中学生
7. 高校生相当
8. 高校卒業相当以上

設問 13

☆一番下のお子さんが「中学生以上」の方は、以下、設問13～25は回答不要ですので、「終了」ボタンを押して、登録を完了してから画面を閉じてください。

★ここからは【小学校6年生までのお子さんがいる方（男性も）のみご回答ください】

一番下のお子さんについてお答えください。

埼玉県立大学在籍中に、あなたが利用したことがある制度をすべて選択してください。（複数回答可）

該当なしの場合、「いずれも利用したことがない」を選択してください。

（育児休業については、問21で伺います。）

1. 通院休暇
2. 通勤休暇
3. 妊娠障害休暇
4. 出産休暇（産前・産後休暇）
5. 育児休業（取得単位：時間 1歳6か月までの育児時間）
6. 子育て休暇
7. 育児部分休業（就学前までの育児時間）
8. 育児短時間勤務（時短）
9. 出産補助休暇
10. 男性職員の育児参加のための休暇
11. 育児・介護のための時間外勤務の制限
12. 育児・介護のための深夜業の制限
13. パパママ育休プラス
14. いずれも利用したことがない

設問 14

★【小学校6年生までのお子さんがいる方（男性も）のみご回答ください】

一番下のお子さんについてお答えください。

埼玉県立大学在籍中に、あなたが利用したことがある給付制度をすべて選択してください。

(複数回答可)

該当なしの場合、「いずれも利用したことがない」を選択してください。

1. 出産手当金 (産休中)
2. 育児休業給付金 (育休中)
3. 出産費 (出産育児一時金 42 万円)
4. 家族出産費 (配偶者の出産費)
5. ホームヘルパー雇用補助
6. いずれも利用したことがない

設問 15

★【小学校 6 年生までのお子さんがいる方 (男性も) のみご回答ください】

一番下のお子さんについてお答えください。

埼玉県立大学在籍中に、あなたが利用したことがある「本学独自の育児支援」および「福利厚生の子育てサービス」をすべて選択してください。

(複数回答可)

該当なしの場合、「いずれも利用したことがない」を選択してください。

1. 育児支援室 (研究棟 409)
2. 研究支援者制度
3. 一時保育補助制度 (入試業務日の保育料補助)
4. 大学ホームページ、WebClass における支援制度の情報提供
5. 福利厚生「ベネフィットステーション」の子育てサービス
6. いずれも利用したことがない

設問 16

★【小学校 6 年生までのお子さんがいる方 (男性も) のみご回答ください】

埼玉県立大学では、次の育児支援策は子どもの年齢が「就学前」に限定されています。

あなたが小学校 6 年生まで延長されていたらよいと思うものをすべて選択してください。

(複数回答可)

該当なしの場合、「なし」を選択してください。

1. 育児部分休業 (就学前までの育児時間)
2. 育児短時間勤務 (時短)
3. 男性職員の育児参加のための休暇

4. 育児・介護のための時間外勤務の制限
5. 育児・介護のための深夜業の制限
6. なし

設問 17

★【小学校6年生までのお子さんがいる方（男性も）のみご回答ください】

コロナ禍における在宅勤務により、あなたの仕事と育児の両立は、通常の勤務時と比べてどのようにになりましたか。

あてはまるものを一つ選択してください。

1. 非常に働きやすい
2. 働きやすい
3. どちらでもない
4. 働きづらい
5. 非常に働きづらい

設問 18

★【小学校6年生までのお子さんがいる方（男性も）のみご回答ください】

あなたは、埼玉県立大学在職中に一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を経験しましたか。

1. はい
2. いいえ

設問 19

☆埼玉県立大学在職中に出産（配偶者を含む）経験のない方は、以下、設問19~25は回答不要ですので、「終了」ボタンを押して、登録を完了してから画面を閉じてください。

★ここからは【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんについて回答してください。

出産、育児について、あなたが受けた「大学からの働きかけ」をすべて選択してください。

（複数回答可）

該当なしの場合、「いずれもない」を選択してください。

1. 「出産」に関する休暇制度の情報提供（説明会、資料配布）
2. 「出産」に関する給付制度の情報提供（説明会、資料配布）
3. 「育児休業」に関する休暇制度の情報提供（説明会、資料配布）
4. 「育児休業」に関する給付制度の情報提供（説明会、資料配布）
5. 人事担当者と育児休業や復職に関する個別面談
6. 上司と育児休業や復職に関する個別面談
7. 人事や上司から育児休業を勧める働きかけ
8. 復職後の雇用契約や労働条件についての説明
9. 同じ大学で出産育児をしている人との情報交換
10. 育児休業中の大学からの情報提供（予定や方法）
11. 男性職員のための育児参加に関する情報提供やセミナー
12. いずれもない

設問 20

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんについて回答してください。

あなたの育児休業取得の意向について、あてはまるものを一つ選択してください。

1. 取得したいと思った
2. 取得は考えていなかった
3. 育休制度がなかった

設問 21

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんについて回答してください。

あなたの育児休業取得について、あてはまるものを一つ選択してください。

1. 取得した
2. 取得しなかった
3. 制度がなかった

設問 22

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験し、育児休業を取得しなかった方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんの育児休業について回答してください。

あなたが「育児休業を取得しなかった理由」について、あてはまるものすべてを選択してください。（複数回答可）

該当するものがない場合、その他に理由を入力してください。

1. 制度が整備されていなかった
2. 育休を取得しづらい雰囲気だった
3. 収入を減らしたくなかった
4. 大学や上司の理解がなかった
5. 残業が多いなど業務が多忙だった
6. 自分にしかできない仕事を担当していた
7. 配偶者や家族が家事育児を担ってくれたから
8. そもそも取得をする必要性を感じなかった
9. その他

設問 23

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験し、育児休業を取得した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんの育児休業について回答してください。

あなたが「育児休業を取得できた理由」について、あてはまるものすべてを選択してください。（複数回答可）

該当するものがない場合、その他に理由を入力してください。

1. 制度が整備されていた
2. 育休を取得しやすい雰囲気だった
3. 日頃から休暇を取りやすい職場だった
4. 配偶者や家族から後押しがあった
5. 制度について十分知っていたから
6. 後のキャリア形成に影響がないとわかったから
7. 休業による所得減の心配が少なかった
8. 残業の少ない職場だった
9. その他

設問 24

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験し、育児休業を取得した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんの育児休業について回答してください。

あなたが育児休業を取得した期間はどれくらいでしたか。

あてはまるものを一つ選択してください。

1. 1か月以内
2. 2～6か月
3. 7か月～1年未満
4. 1年～1年6か月未満
5. 1年6か月～2年未満
6. 2年以上

設問 25

★【一番下のお子さん（小学校6年生以下）の出産（配偶者を含む）を本学で経験し、育児休業を取得した方のみ回答ください】

埼玉県立大学在職中、一番下のお子さんの育児休業について回答してください。

あなたが育児休業取得前の感覚に戻るのに必要だった期間はどれくらいでしたか。

あてはまるものを一つ選択してください。

回答が終わりましたら、「終了」ボタンを押して、登録を完了してから画面を閉じてください。

1. 復職後、比較的すぐ（3か月未満）
2. 復職後、3か月くらい
3. 復職後、6か月くらい
4. 復職後、1年くらい
5. 復職後、2年を超えてから
6. まだ戻っていない

資料2 介護に関する調査

設問 1 あなたの職種を選択してください

1. 職員
2. 教員

設問 2 あなたの年代を選択してください

1. 20 歳代
2. 30 歳代
3. 40 歳代
4. 50 歳代
5. 60 歳代以上

設問 3 介護休暇について、制度や内容を知っていますか

1. 知っている
2. 知らない

設問 4 介護休業について、制度や内容を知っていますか

1. 知っている
2. 知らない

設問 5 あなたには現在、介護が必要な状況にある家族はいますか。同居の有無を問わずお答えください。

---「2. いない」を選択された方は設問はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

1. いる
2. いない

設問 6

(★ここからは介護が必要なご家族がいる(別居も含む)方のみがお答えください)

現在、介護が必要な状況にあるご家族はどなたですか

いくつでも選択してください

1. 父母
2. 義父母
3. 祖父母
4. 配偶者
5. 子
6. その他

設問 7

介護を主に行っている方はどなたですか。いくつでも選択して下さい

1. あなた本人
2. 配偶者
3. その他

設問 8

あなたの介護の形態をいくつでも選択して下さい

1. 同居の介護が必要な家族に介護保険等のサービスを利用せず家族で在宅介護を行っている
2. 同居の介護が必要な家族に介護保険等の居宅サービス(デイサービス・ショートステイ・訪問介護など)を利用して在宅介護を行っている
3. 施設入所
4. 近隣に住む介護の必要な家族を訪問して介護や病院への付き添いなどを行っている
5. 遠方に住む介護の必要な家族を訪問して介護や病院への付き添いなどを行っている
6. その他

設問 9

仕事と介護を両立する中で困ったり、大変に思うことを教えてください。下記からいくつでもお選びください。

1. 精神的疲労

2. 経済的疲労
3. 身体的疲労
4. 時間がないこと
5. 留守中に介護する人の様子や状態が心配
6. 施設での介護の実態が見えないこと
7. 仕事の進行やスケジュール
8. 自分自身の健康管理
9. 施設への移動
10. 一緒に介護する相手との意見の違い
11. 子育てとの両立
12. 相談する場所がない、相談相手がいない
13. その他

設問 10 介護支援で必要・重要と思う支援を教えてください。下記からいくつでもお選びください。

1. 業務サポート
2. 土日業務に対する配慮
3. 介護専門カウンセラー
4. 家事援助
5. 代替教職員
6. 会議の見直し
7. 時間割の見直し
8. 看護休暇
9. 介護休暇
10. 委員会など学内活動の制限
11. 事務作業の軽減
12. テレワーク
13. 短時間勤務
14. 介護を考慮した業務評価
15. 実習地配置への配慮
16. 経済的支援制度
17. 相談窓口
18. その他

設問 11 介護休暇や介護休業制度を利用したことがありますか。次のうちから1つ選んでください。

1. 利用した
2. 利用していないが、利用する予定である
3. 利用したいと考えるが、利用していない
4. 利用の必要がないため、利用しない
5. 大学に制度があるのかわからない

設問 12 介護休暇、介護休業等の利用経験の有無について質問です。

以下に制度について簡単に説明します。

介護休暇とは要介護状態にある家族を介護する教職員が1日単位で取得できる制度。

介護休業とは要介護状態にある家族を介護する教職員が時間単位で取得できる制度。

部分介護休業とは要介護状態にある家族を介護する教職員が1日2時間を超えない範囲で取得できる制度。

介護休暇について

1. 利用していない
2. 利用した、または利用予定である

設問 13

介護休業について

1. 利用していない
2. 利用した、または利用予定である

設問 14

介護部分休業について

1. 利用していない
2. 利用した、または利用予定である

設問 15

(★介護休暇や介護休業等を利用した方、利用予定の方のみお答えください)

その制度をどのくらいの期間利用(予定)しましたか？

1. 介護休暇を (① 日間)
 2. 介護休業を (② 時間)
 3. 介護部分休業を (③)
- (1)
 - (2)
 - (3)

設問 16 (介護休暇や介護休業等を利用した方のみお答えください)

利用してよかった点、不便に感じた点など自由にお答えください。字数制限：上限 200 字
まで

設問 17 (介護休暇や介護休業等を利用していない方のみお答えください)

介護休暇、介護休業等を利用しない理由を教えてください。下記からいくつでもお選びください。

1. 今後、現在より休業が必要な状況が来るかもしれないから
2. 仕事が忙しく休めないから
3. 休業すると今後のキャリアに影響があると感じるから
4. 休業することが周囲に申し訳なく感じるから
5. どのタイミングで取得したらよいかわからないから
6. 家族が介護して手が足りているから
7. 大学で介護をしていることを公表していないから
8. とくに理由はない
9. その他

設問 18 (介護状況にあるご家族がいる方だけがお答えください)

介護や介護支援に係るご意見がありましたら記入してください。字数制限：上限 200 字
---質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました---

資料3 上位職を目指すことに関する調査

設問 1 あなたの性別について選択してください

1. 女性
2. 男性

設問 2 あなたの年齢について選択してください

1. 20 歳代
2. 30 歳代
3. 40 歳代
4. 50 歳代
5. 60 歳代以上

設問 3 あなたの職種について選択してください

1. 職員
2. 教員

設問 4 あなたは管理職ですか？

ここでは管理職とは職員は課長以上、教員は教授および専攻長以上を指します。

1. 管理職または教授である
2. 管理職または教授のどちらでもない

設問 5 お子さんの有無について選択してください

1. 子どもがいる
2. 子どもはいない

設問 6

上位職への昇進を希望することについて選択してください

1. 希望する
2. 希望しない
3. わからない

設問 7

この設問は「昇進を希望しない」方のみが回答してください。

昇進を希望しない理由をいくつでもお選びください。

1. ストレスが増える
2. 責任が増える
3. 自分には管理職が向かない
4. 休みがとりづらくなる
5. 管理職の仕事に興味ややりがいを感じない
6. 家庭（プライベート）との両立が難しい
7. 忙しくなる
8. 能力が不足している
9. 経験が不足している
10. 報酬が業務量や責任に見合わない
11. 専門性を極める仕事がしたい
12. 研究業績が不足（教員のみ）
13. ロールモデルとなるような人が身近にいない
14. 管理職を育てる制度や研修がない
15. 女性枠で管理職になりたくない
16. その他

設問 8 全ての方がお答えください。

次の能力は管理職としてどの程度必要だと思いますか

(5: とても必要だ 4: まあ必要だ 3: どちらでもない 2: あまり必要ない 1: 全く必要ない) から1つだけ選んでください。

【業務経験の広さ】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 9

【業務経験の深さ、専門性】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 10

【マネジメント力】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 11

【部下育成力】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 12

【指導力、リーダーシップ】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 13

【決断力】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 14

【実行力】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 15

【アピール力】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 16

【気づかい、心づかい】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 17

【柔軟性】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 18

【共感性】

とても必要だ 5 4 3 2 1 全く必要ない

設問 19 全ての方がお答えください。上位職を目指したいと思える環境とは次のうちどれだと思いますか。いくつでも選択してください。

1. ワークライフ・バランスに力を入れている
2. 過度な長時間労働がない

3. 役割相応の報酬がある
4. 公正な人事評価制度が整っている
5. 有給休暇取得率が高い
6. ハラスメントがない
7. 女性教職員の意見が軽視されない
8. 学内のコミュニケーションがとりやすい
9. 産休・育休制度が充実し、とりやすい
10. 大学が男社会体質でない
11. その他

設問 20 この設問は管理職または教授の方のみがお答えください。

管理職または教授になるにあたって役立ったものは何ですか。次のうちいくつでも選択してください。

1. 仕事における失敗の経験
2. 困難を伴う仕事の経験
3. 仕事における成功体験
4. 仕事を面白いと感じた経験
5. 多様な業務の経験
6. 専門的な業務の経験
7. プロジェクト等のリーダー経験
8. 上司の支援
9. チームで仕事をする経験
10. 自主的な情報収集や勉強
11. 学内の人脈
12. 学外の人脈
13. 先輩の助言・指導
14. 家族の理解・サポート
15. 大学が提供する研修や制度
16. 同性のロールモデルの存在
17. その他

設問 21

(最後は遊びの質問です)

上司にしたい有名人女性を挙げてください。芸能人等のジャンルの人でも構いません。

----- ご協力ありがとうございました ----- 字数制限： 上限 100 字まで

【作成・発行】

公立大学法人埼玉県立大学 ダイバーシティ推進委員会

【埼玉県立大学ダイバーシティ推進委員会の調査に関する問い合わせ先】

埼玉県立大学 ダイバーシティ推進委員会

TEL:048-973-4109 E-mail:soum@spu.ac.jp